

第66期環境経営レポート

(令和5年9月1日～令和6年8月31日)



株式会社 **KAITO**

令和7年2月 1日 発行

CONTENTS

1. MISSION	P3
2. 事業所の概要	P4
3. 環境経営方針	P7
4. 環境目標	P8
5. 環境経営計画	P10
6. 環境経営目標の実績	P11
7. 取組結果とその評価、次年度の取組	P13
8. KAITO独自の活動	P23
9. 環境関連法規等の遵守状況	P31
10. 社会貢献活動	P33
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	P36

MISSON

弊社は、昭和34年8月東海潜水工業株式会社として法人設立、以来61年間静岡県内の港湾工事を中心に事業を行って参りました。平成16年からは一般土木工事へ参入、更に現在は全国で各事業展開をしています。また、平成22年からは「Sand Magic」のブランド名で 静岡県内の幼稚園、保育園のメンテナンス事業をスタートさせ、子供たちに「楽しく、安全な遊び場」を提供しております。

事業を進めていく上で環境と防災の必要性を強く感じ、環境については平成19年5月静岡県内の建設業者としては3番目にエコアクション21を取得、平成23年からは静岡市の森林アドプト事業への支援や、地球の水辺を守る社会貢献事業に参画し、全国津々浦々の水辺の環境保全を行っております。

また、防災においても静岡県や静岡市をはじめとする行政との災害時の応急対策業務に関する協定の締結、平成24年4月には静岡市内で建設業としては初めて事業継承計画（BCP）を策定し、防災士の資格取得など防災面も強化。環境や防災意識の高い会社になりました。

平成24年8月からは53年間ご愛顧いただいた『東海潜水工業株式会社』から『株式会社 KAITO』に社名を変更することで、今まで以上に多彩に多面的に皆様のご要望にお応えできる事業展開を目指しております。

また、個性的な会社でありたい、社会に必要とされる会社でありたいと考え事業活動を通じた「人づくり」の仕組みを構築し、エコアクション21の認証をはじめ、環境人づくり企業大賞2015優秀賞、2016年度日本ログハウス・オブ・ザ・イヤーノンセクション部門優秀賞、静岡市CSRパートナー企業表彰など多くの賞を受賞しております。

さらに、平成27年からは建設業でもICTを活用した工事が増加している事に着目し、ドローンやレーザースキャナ、水陸一体測量機などを導入、現在では空撮から陸上、水中までの3次元測量業務の対応ができるようになりました。

これからも我々の持つ「技」「アイデア」そして「人財」が世の中に貢献できる会社づくりを目指します。

「私達の想いが日本の力になり、世界をつなぐ力になる」

想いと力の可能性を信じて……

株式会社 KAITO
代表取締役 星野知己

2.事業所の概要

1. 事業者名及び代表者名

株式会社KAITO 代表取締役星野知己

2. 所在地

本社 〒424-0904 静岡県静岡市清水区駒越中二丁目4番36号

船着場 〒424-0944 静岡県静岡市清水区築地町地先

3. 法人設立

昭和34年8月18日

4. 資本金

1000万円

5. 許可

静岡県知事許可（般-27）9257号（平成27年10月11日～平成32年10月10日まで）

土木工事業・とび・土工・コンクリート工事業・石工事業

測量業 国土交通省中部地方整備局 登録第（1）-35747号

静岡県産業廃棄物収集運搬許可 第02201136912号

（令和3年10月7日～令和8年10月6日）

※現在のところ実績なし

6. 事業内容

土木工事業

調査・測量

水中における環境管理及び保全事業

海難救助並びに掃海

保育園、幼稚園の砂場の管理

7. 環境管理責任者

上沢 豊

8. 従業員 24名

9. 施設の状況

小型船舶（20t未満） 9隻

自家用小型貨物車 9台

潜水用コンプレッサー 11台

10. 売上（単位：千円）

第63期	第64期	第65期	第66期
2020.9～2021.8	2021.9～2022.8	2022.9～2023.8	2023.9～2024.8
277,278	379,279	332,729	380,302

11. 産業廃棄物収集運搬の取り扱いについて

実績 今のところありません。

料金 お見積りいたします。一度ご相談ください。

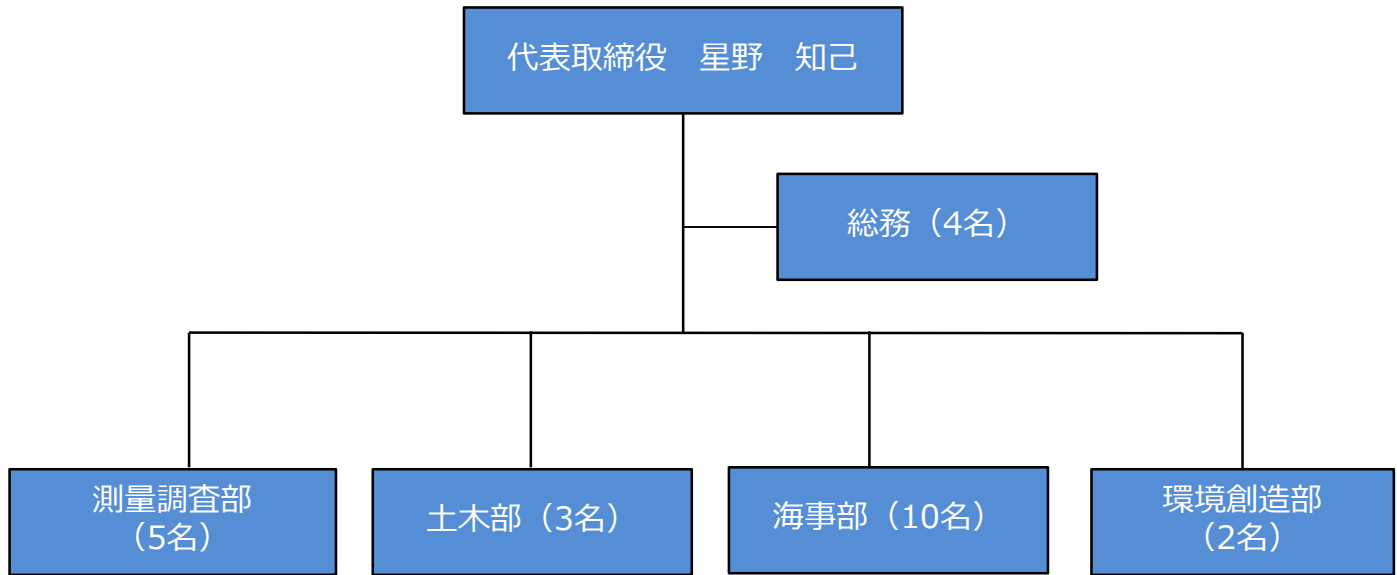
12. 対象範囲

本社、船着場、土木工事、潜水部門、測量部門、Sand Magic

私達は自社の技術・アイデアで
「日本を元気にしたい。そして美しい街、自然を残したい。」
と想っています。

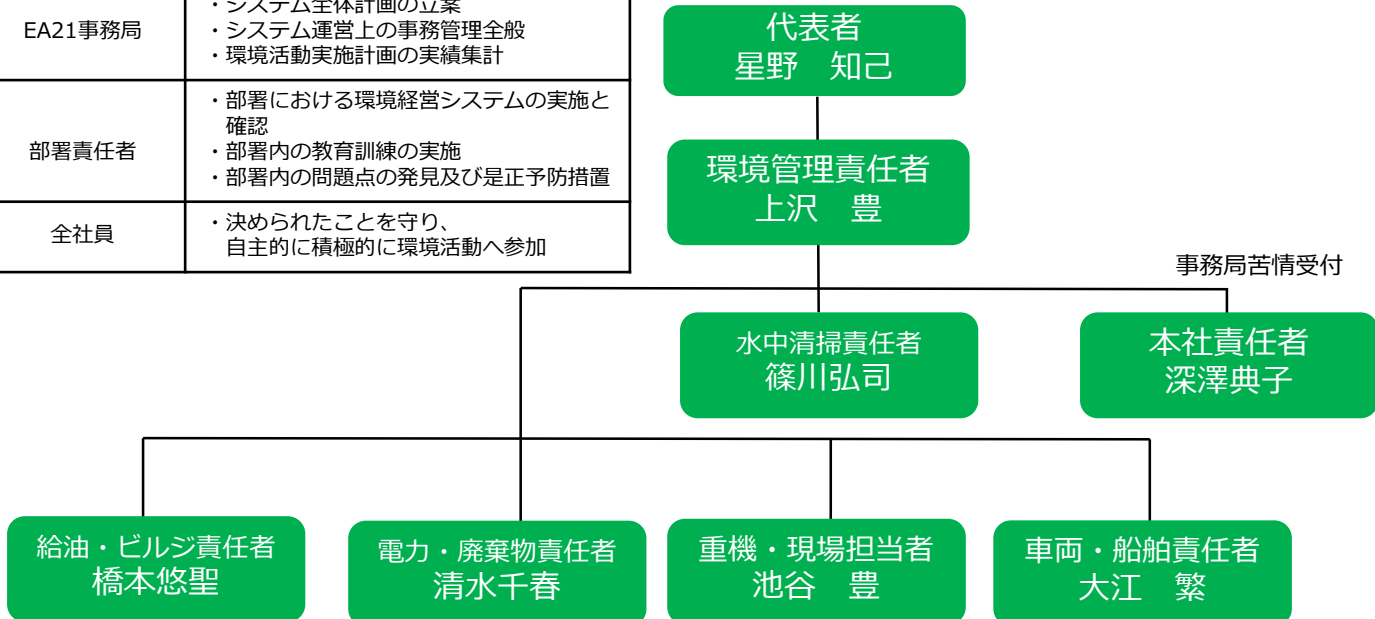


株式会社KAITO 組織図



第65期エコアクション21実施体制組織図

代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を決める 環境管理責任者の任命 資源の用意 (人材・資金・設備等)の用意 経営における課題とチャンス明確化
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの総責任者として必要な権限を持つ システムの構築・運用状況を代表者へ報告 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> システム全体計画の立案 システム運営上の事務管理全般 環境活動実施計画の実績集計
部署責任者	<ul style="list-style-type: none"> 部署における環境経営システムの実施と確認 部署内の教育訓練の実施 部署内の問題点の発見及び是正予防措置
全社員	<ul style="list-style-type: none"> 決められたことを守り、自主的に積極的に環境活動へ参加



環境経営方針

(平成18年10月1日制定 平成19年9月1日改訂 平成21年9月1日改訂 平成22年9月1日改訂
平成24年9月1日改訂 平成26年9月1日改訂 平成30年9月1日改訂 令和2年9月1日改訂
令和3年9月1日改訂)

基本理念

弊社の事業の活動場所は海や河川、湖、山であるため、事業活動自体が直接自然に負荷を与えやすい環境にある。そういった背景を踏まえながら、自然からの恩恵に感謝し、自然との共生、社会的責任を果たしながら事業を進めていく。その為には事業から排出されるCO2の削減、省エネルギーを目的とした設備の導入や事業で通じた様々な取組を継続的に行うことで、環境に対応した、人づくり、会社作りを実践していく。

行動方針

当社の主な事業活動である水中土木作業、または事業活動の場所である海や湖、河川の環境負荷低減及び改善を最重点課題とし、下記の目標を取り組みます。

- 1.地球環境保全を維持するためにエコアクション21に参加し、これらを運用、維持することを努めます。
- 2.二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量について自主管理しながら削減に努めます。
- 3.船舶から排出されるビルジについては排出抑制のため、日頃の点検整備の励行を実施します。
また、排出されたビルジは、適正に処理します。
- 4.産業廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組みます。
- 5.産業廃棄物(水中からのゴミ)の回収は、作業手順を順守し、人員や機材の配置、作業の動線を明確にして効率よく行います。
- 6.地域社会との調和を努め、周辺地域の環境影響をなくします。
- 7.環境に関する環境関連法規を遵守し、その社会的責任を全うします。
- 8.環境に配慮した行動が出来るように社内教育・訓練を実施します。
- 9.会社の施設、設備、仕組を通じて環境に対応できる「環境人」の育成と伝承をします。
- 10.環境に配慮した事業活動を中心に環境経営の継続的改善を行います。
- 11.この環境経営方針は、事業活動における更なる環境配慮の促進を図るため、全社員参画による取り組みを目指します。

株式会社 **KAITO**

星野知己

4. 環境経営目標

第62期を基準値として、活動単位の採用を基に10年間で10%削減させる目標とします。

このため、第65期(令和4年9月1日～令和5年8月31日)から第70期(令和9年9月1日～令和10年8月31日)までに以下のとおり、前年比1%削減を当面の目標とします。今期は2期目です。

【CO2排出量の削減目標】(令和5年9月～令和6年8月)

弊社で事務所・現場で使用している化石燃料(電力、LPG、A重油、ガソリン、軽油を対象にしています。(排水量については事務所のみ)

項目	年度	第62期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
売上高当たりのCO2 排出量	kg/万円	2.73	2.62	2.59	2.56	2.53	2.51
CO2排出量 (①+②+③+④+ ⑤+⑥)	kg-CO2	129,731	125,601	124,345	123,102	121,870	120,651.3
事務所排出分 (①+②)	kg-CO2	3,537	3,398	3,364	3,330	3,296	3,263
①電力	kg-CO2	3,533	3,394	3,360	3,326	3,292	3,259
②LPG	kg-CO2	4	3	3	3	3	3
現場排出分 (③+④+⑤+⑥)	kg-CO2	126,194	121,221	120,010	118,810	117,621	116,444
③電力	kg-CO2	8	7	7	7	6	6
④A重油	kg-CO2	2,439	2,343	2,320	2,297	2,274	2,251
⑤ガソリン	kg-CO2	31,907	30,649	30,343	30,040	29,739	29,441
⑥軽油	kg-CO2	91,840	88,222	87,340	86,467	85,602	84,745

【排水量の削減目標】(令和5年9月～令和6年8月)

事務所で使用している排水を対象にしています。※排水量については事務所のみ 下水以外の水の流出はないので上水道使用量 = 下水道使用量とする。

年度	第62期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
総排水量 総量(m ³)	184	176	174	172	170	168

【産業廃棄物の削減目標】(令和4年9月～令和5年8月)

弊社の事業(①社内から排出される廃棄物、②受注工事(土木工事)から排出される廃棄物が対象です。
※産業廃棄物については現場のみ

年度	第65期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
産業廃棄物 総量(t)	282	280	277.2	277.4	274.6	271.8

【一般廃棄物の削減目標】



第66期（令和5年9月1日～令和6年8月31日）から
第70期（令和9年9月1日～令和10年8月31日）まで

本社業務で発生する一般廃棄物です。削減目標としては毎年1%の削減を目標とします。

年度		第61期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
産業廃棄物	総量(kg)	934.2	888.4	879.5	870.7	861.9	853.2

【船舶のビルジ削減目標】

第66期（令和5年9月1日～令和6年8月31日）から第70期（令和9年9月1日～令和10年8月31日）まで

弊社では船舶を使用している。ビルジ（船底に溜まった油混じりの水分）の管理は一つ間違えば海洋汚染につながる可能性があり、また、船を沈没させたりする事になる場合もあるので日常の点検でよく確認します。削減目標としては毎年1%の削減を目標とします。

年度		第58期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
総排水量	リットル	2000.0	1817.5	1799.3	1817.7	185.82	183.96

※ビルジについては現場のみ

※水中清掃のCo2削減目標はP23に記載

5.第66期環境経営(事務所及び現場)計画

電力量、化石燃料、排水量、廃棄物の削減はもとより、当社の事業活動から発生するビルジ（船底に溜まった汚水）の排出量の削減と現場で使用する資材の反復使用を最重点項目とする。また、水中清掃事業活動についても発生するCO2の排出量の削減と現場で回収したごみの管理の為の計画を以下の通り進める。

【CO2削減のための取組】

1.電力量

当社のCO2排出量中約3%を占めている。毎年1%の削減を目指す為に、空調の適温化（冷房28℃・暖房20℃）、昼休み・不在時の消灯、OA機器の待機時は電源を切る。室内に温度計を設置し、温度管理を実施していく。

2.化石燃料

当社のCO2排出量中96%以上を占めている。毎年1%の削減を目指す為に、船舶についてはアイドリングの短縮、急発進、空ぶかしの禁止、エンジンの回転数は最大出力の90%とする。また、同一現場に行く時は相乗りをし、排気ガス・騒音を抑える為、車輛、機械の整備及び点検は、細めに行う。

ガソリン車・ディーゼル車は、アイドリング・急発進、空ぶかしの禁止、早めのシフトアップ、無理な追い越しやスピード超過は燃費も低下し、危険なので行わない。

船舶の船底は水抵抗を受け易く、付着物が付いていると航行に影響が出るため、ドックへの上架でのクリーニングは定期的実施、ゴムボートの船体損傷の有無、空気圧チェックをする。

車や船に必要以外の荷物の積載は極力やめ、現場終了時に整理整頓を励行する。

作業日程はCO2削減に大きな影響を与えるため、発注者とよく協議した上で効率的な作業日程を編成する。

温度計・湿度計を使用し、室内温度を遵守する。

【産業廃棄物削減の取組と管理】

廃棄物の分別を徹底し、排出量を極力抑える。また、木材・鉄材については再利用資源として取り扱う。

現場に投入する資材は反復使用し、ITによる現場管理を更に推進していく。

水中清掃においてはいかにごみを効率よく回収できるか、人員・資器材の適正配置

リサイクル率の向上

(1) 産業廃棄物処理業者の優良業者の事前調査と選定（マル優マーク取得事業者・エコアクション認証事業者）

(2) 現場でできる限りごみの分別を行う。

(3) ごみの分類の精度を上げる

【排水量】

生活利用水は、細めに止水し、水を流しっぱなしにしない。節水への呼びかけを行う。

芝生の水やりは積極的に雨水なども併用する。

ボウルやバケツを使って洗い物をする。

【ビルジの削減】

ビルジ（船底に溜まった水混じりの油分）・廃油については直接環境に大きな影響を及ぼすため日頃からの数量管理を徹底し、処理については業者に委託する。以上に加え、廃掃法等についてもしっかり認識しながら機械設備の日常点検は積極的に行い、排出量を抑えていく。

【一般廃棄物削減の取組】

両面コピーの徹底、サーバーを活用した電子データ保存によるペーパーレス化を推進する。自分で食べた弁当は自分で処理する。

【地域活動】

地元NPOの活動に積極的に参加し、庵原川などの清掃や保全の協力・支援を行っていく。

静岡市森林アドプト事業への協力

以上を環境活動計画の柱として活動を実践していく。

6.環境経営目標の実績

【CO2の排出量】

【コメント】

第66期目標に対し1%削減
前年比14%増

①Co2排出量 第66期（令和5年9月～令和6年8月）
当社におけるCO2の排出量は以下となっております。

【単位：kg-CO2】 電力の排出係数は0.439kg-CO2としています

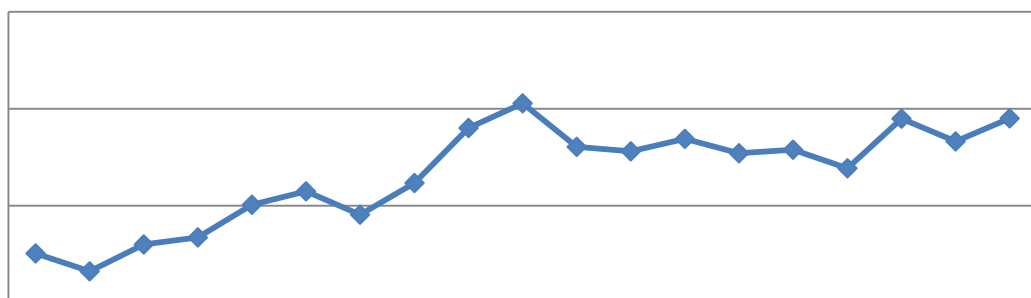
	電力	ガソリン	軽油	A重油	LPG	計
第66期 CO2排出量 (kg-CO2) (目標値)	3,401	30,649	88,222	2,343	3.36	124,619
第66期 CO2排出量 (kg-CO2) (実績)	3,742	48,231.8	67,689	4,336	1.7	124,001
第66期 CO2排出量 (kg-CO2) 本社分	3,742	0	0	0	1.7	3,744
第66期 CO2排出量 (kg-CO2) 現場分	0.44	48231.8	67,689	4,336	0	120,257.2
削減率	10%	157%	-24%	185%	-50%	-1%
評価	×	×	○	×	○	○

売上高

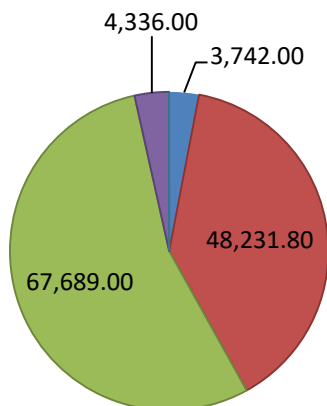
【コメント】

売上は前期比14%増加した

60,000
40,000
20,000
0



CO2排出内訳



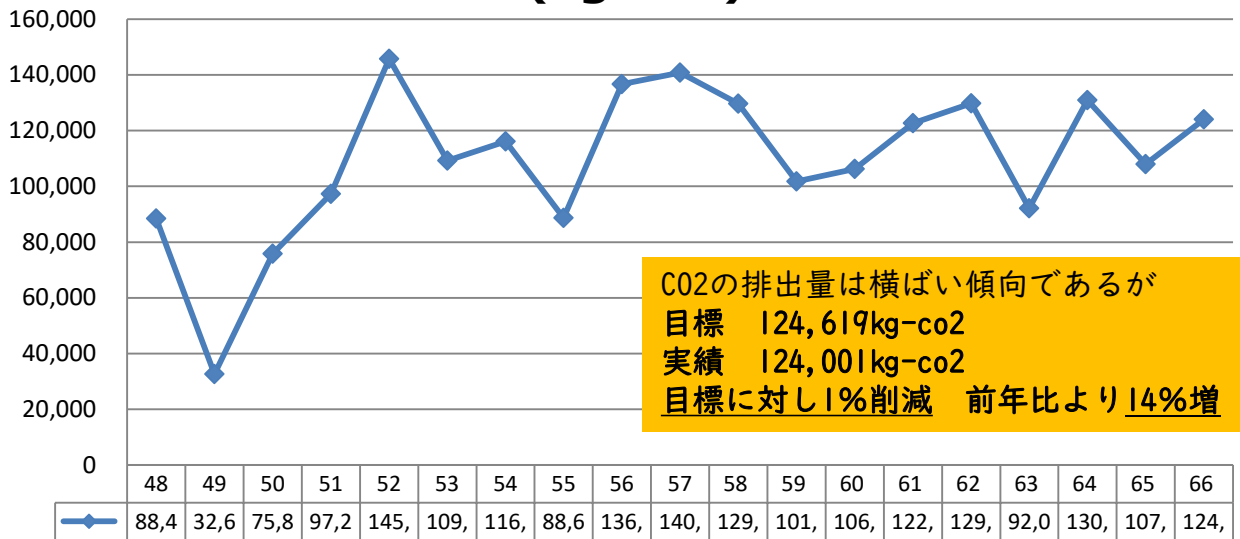
- 電気
- ガソリン
- 軽油
- A重油
- LPG

【コメント】

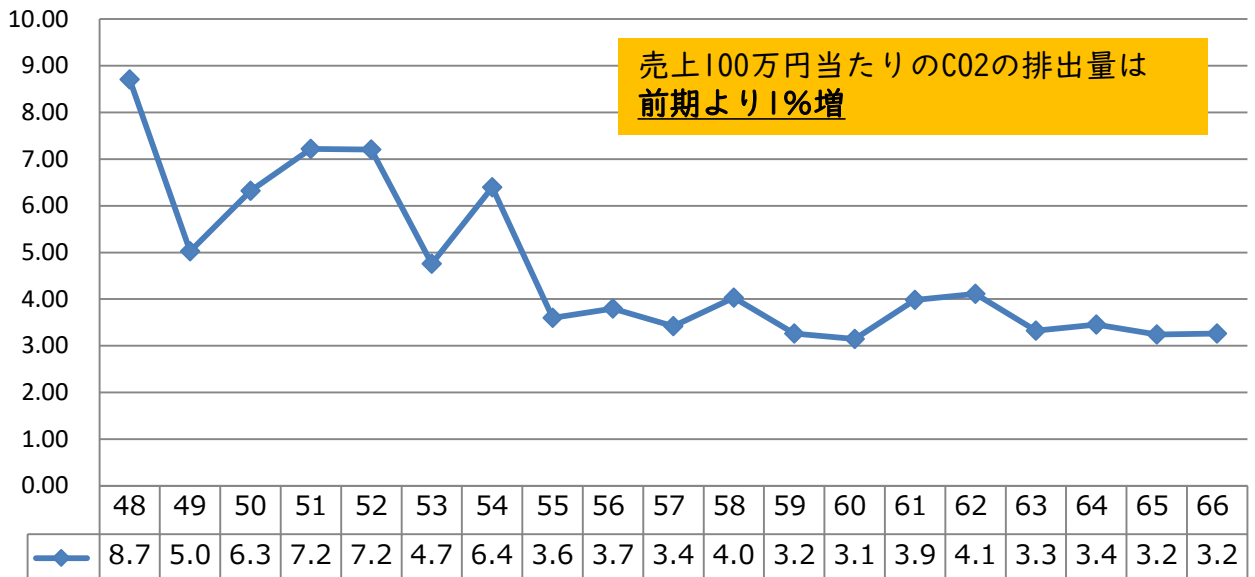
KAITOのCO2排出の内訳は
軽油54.5%
ガソリン38.8%、
A重油3.5%、電気が3%と
なっている



KAITOの事業から排出されるCO2の排出量 (kg-co2)



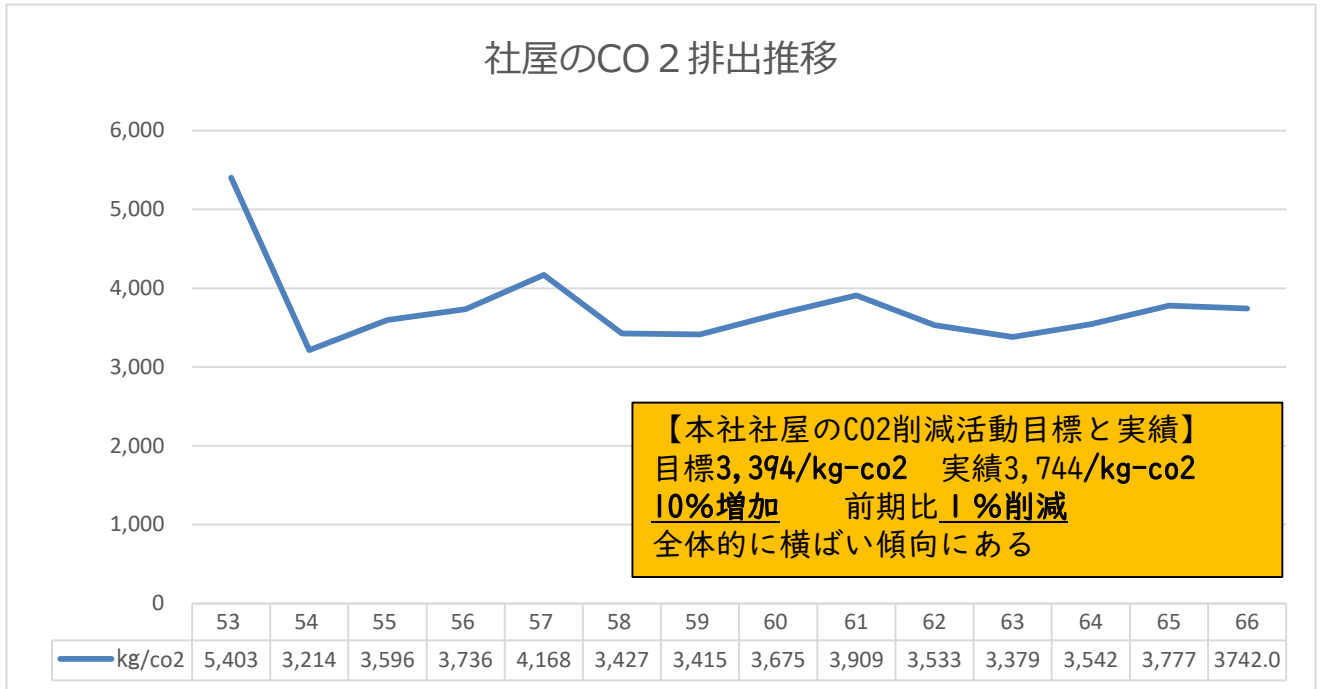
売り上げ当たりのCo2排出量 (kg-CO2/万円)



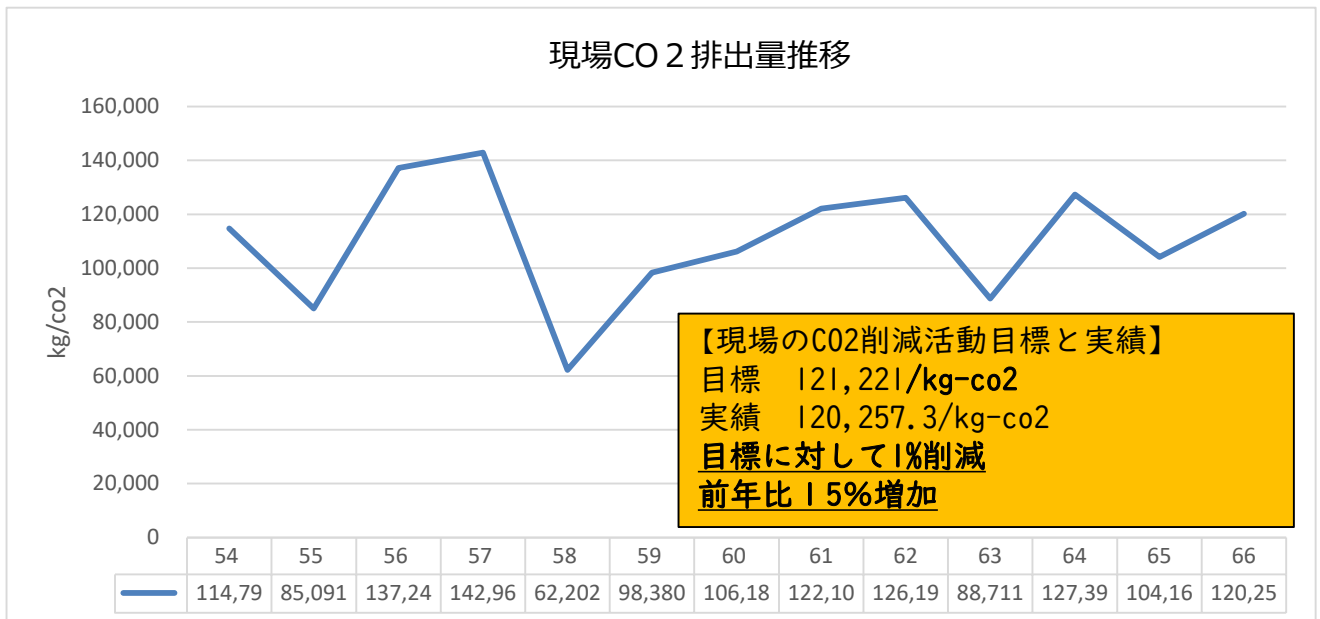
7.取組結果とその評価、次年度の取組



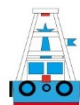
本社社屋のCO2排出削減の取組の内訳とその評価



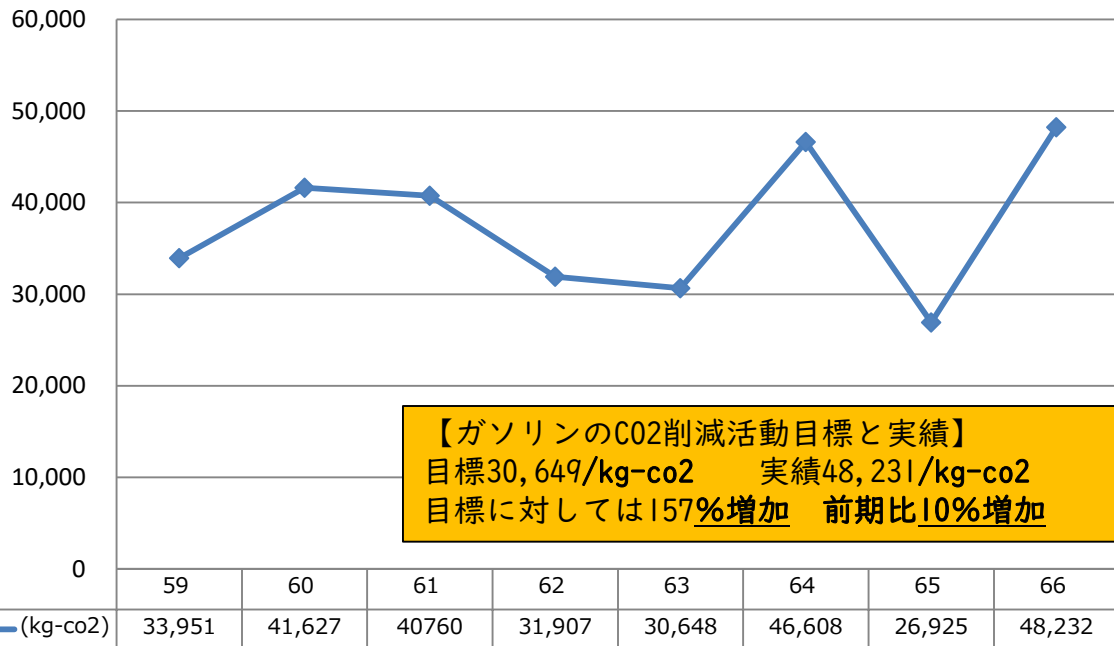
現場のCO2排出削減の取組の内訳とその評価



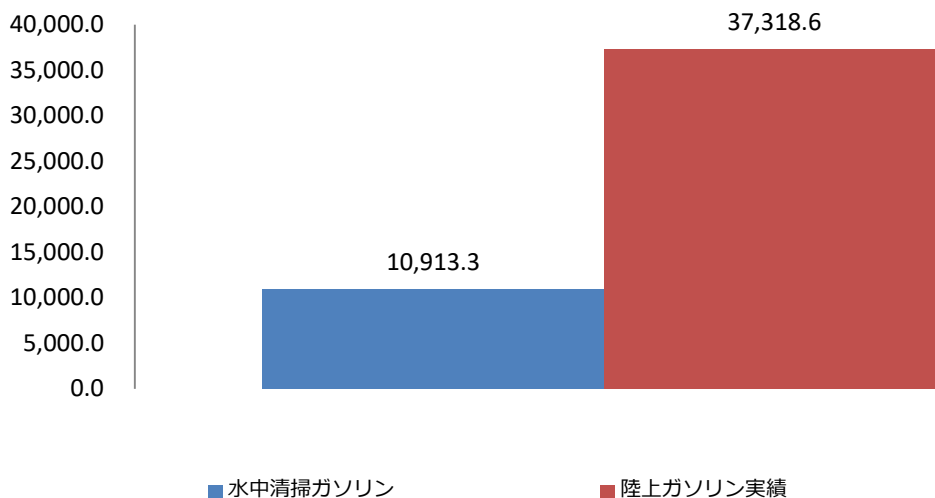
陸上作業で重機を使う仕事が減った事で、軽油の使用量が少なくなった。施工時はICT建機などの導入を検討していく。



ガソリンの使用推移



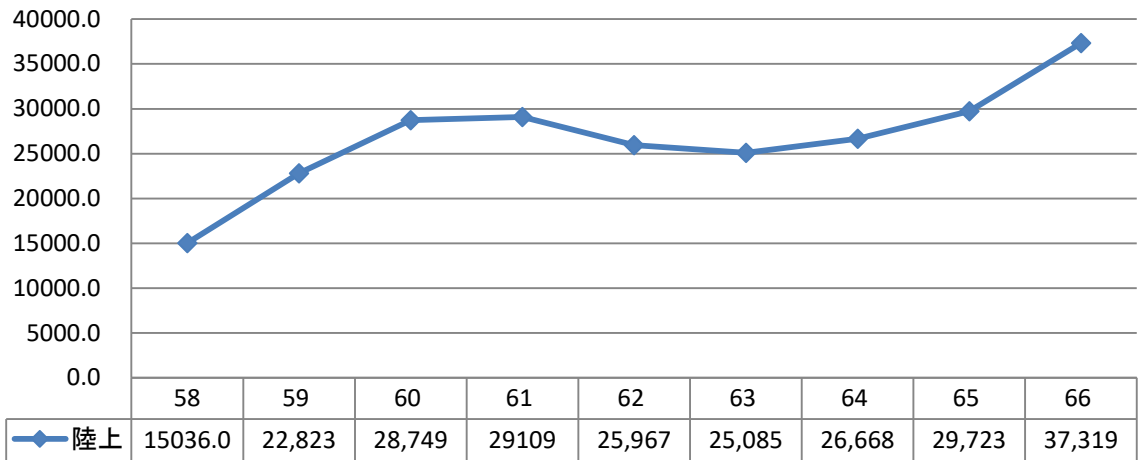
第66期の部門別ガソリン使用実績 (kg-co2)



陸上作業での車両使用量が増加した。



陸上のガソリン使用推移



【部門毎のCO2削減活動目標と実績】

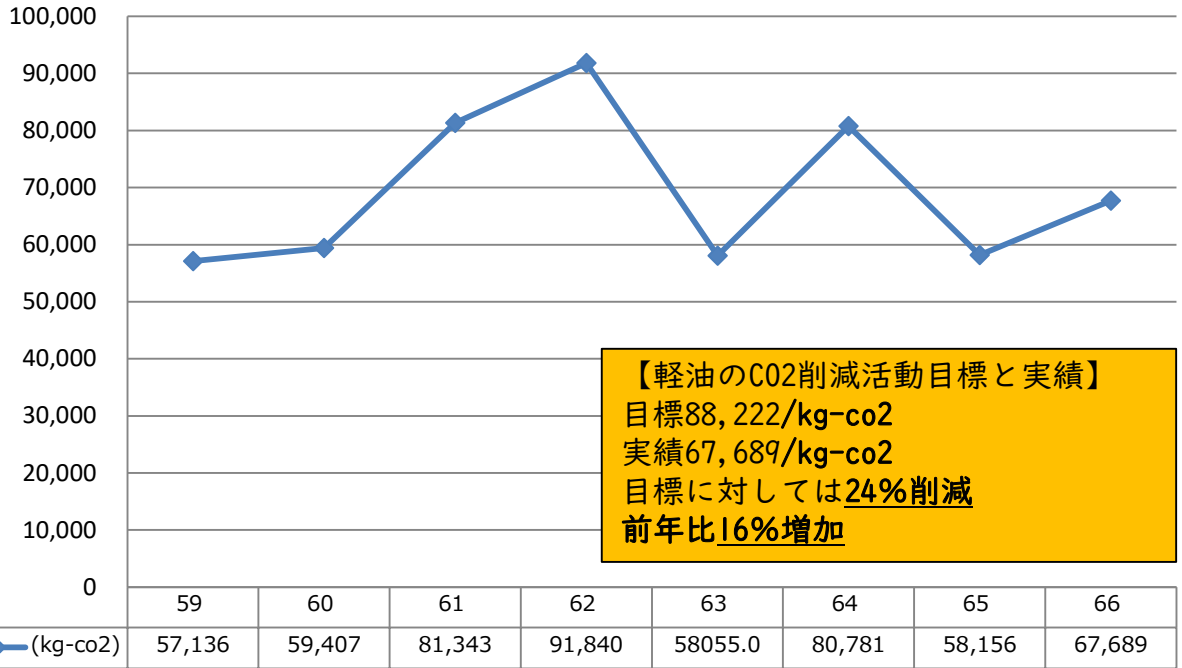
陸上：目標 19,135kg-co2 実績37,318kg/co2

目標に対して195%増加 前期比25%増加

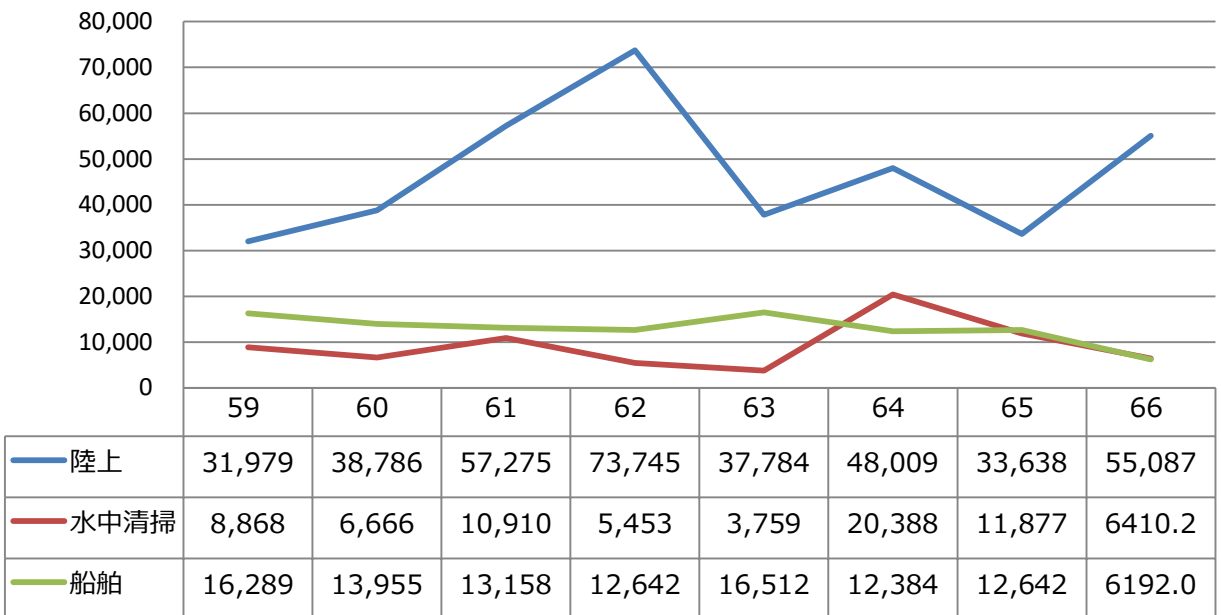
重機類の稼働増により増加した

軽油から排出されるCO2排出削減の取組の内訳とその評価

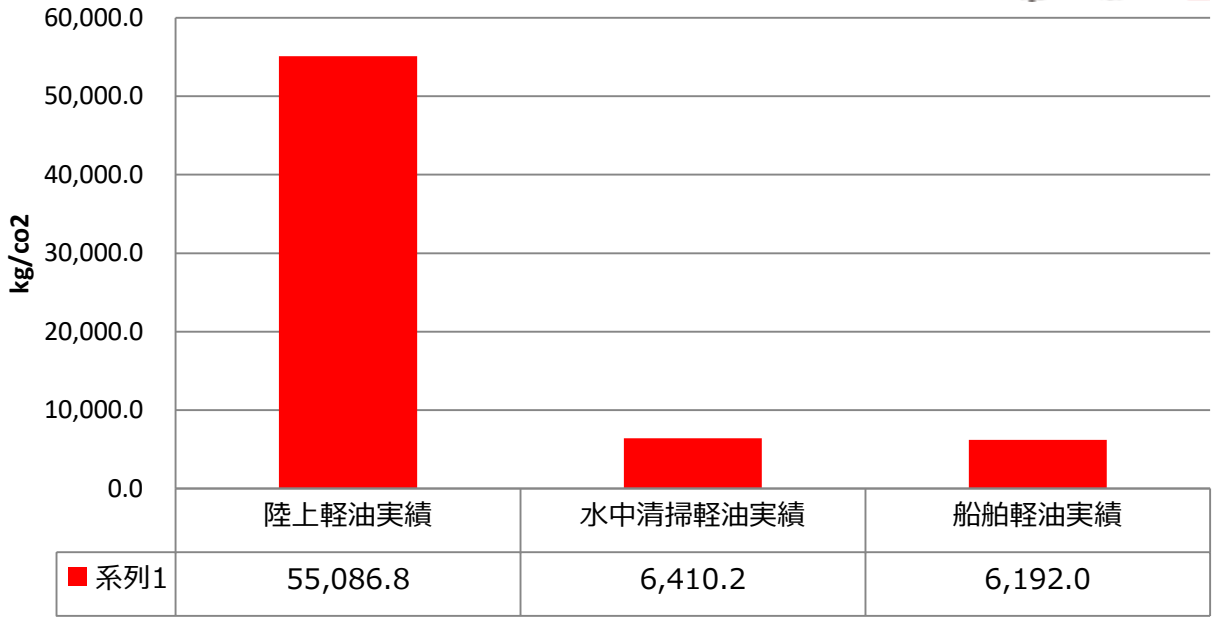
軽油推移



用途別軽油推移



軽油使用別月毎実績

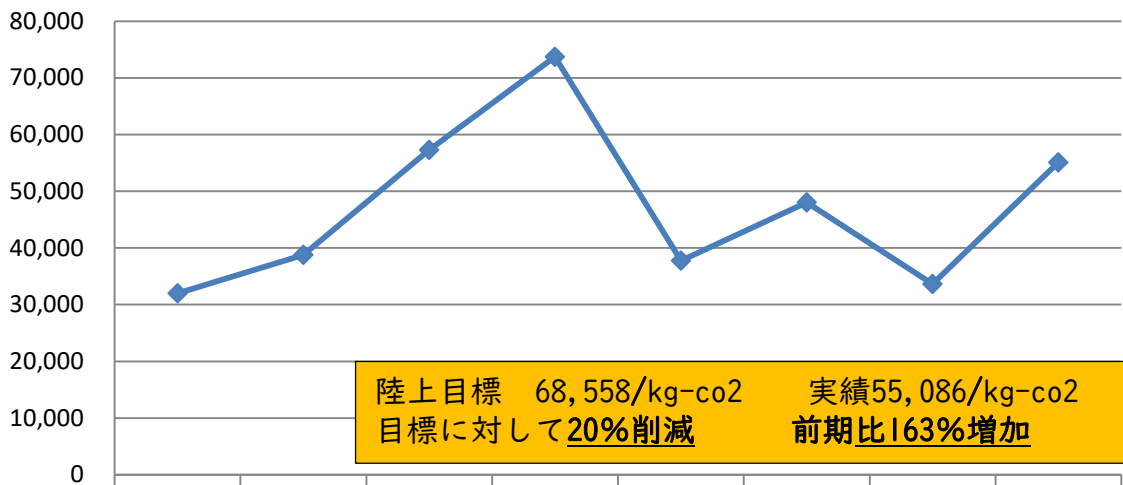


部門別では、陸上での使用が多かった。しかし、下の表のように目標より52%、前年比でも30%削減できている。

軽油の排出量部門別の推移

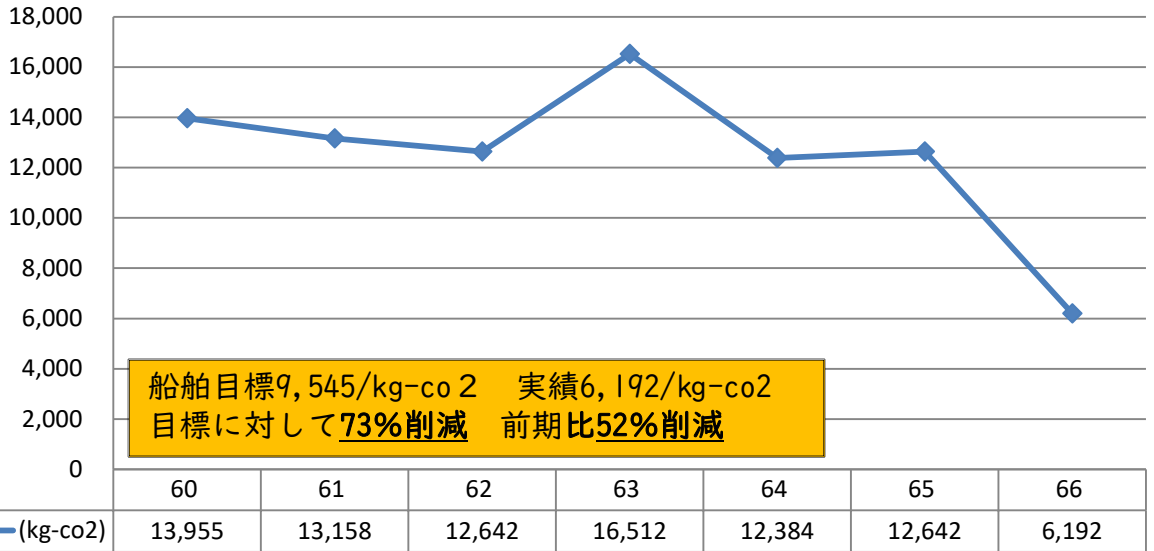
※水中清掃についてはP23に記載しております

陸上業務で使用する軽油推移



◆ (kg-co2)	59	60	61	62	63	64	65	66.0
	31,979	38,786	57,275	73,745	37,784	48,009	33,638	55,087

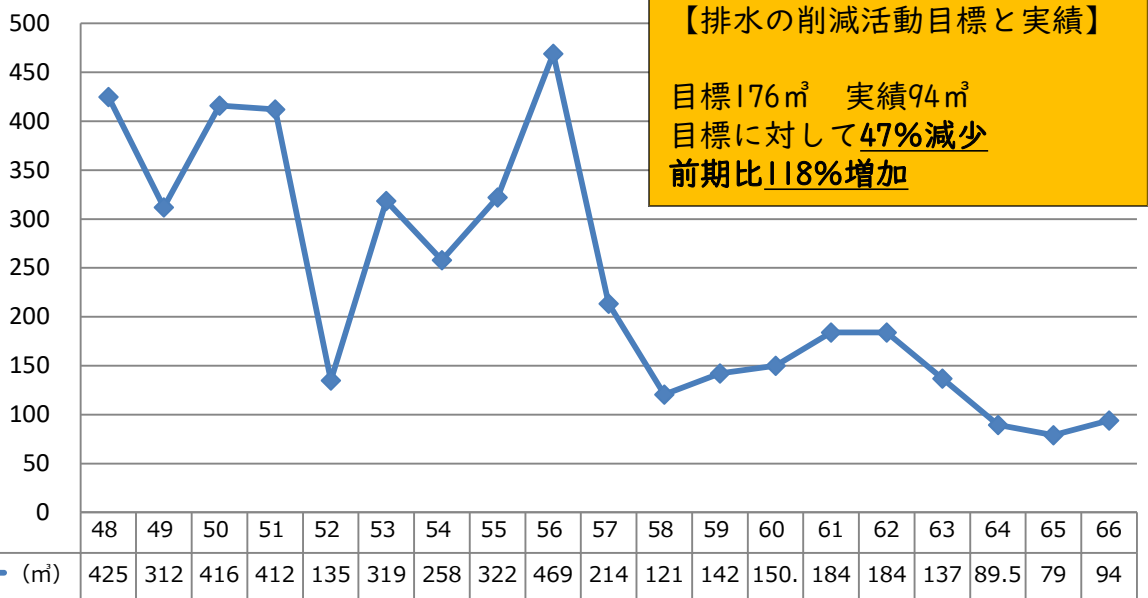
船舶の軽油使用推移



潜水作業の受注減少により、船舶の使用回数が減少したため、軽油の使用量も増加した。

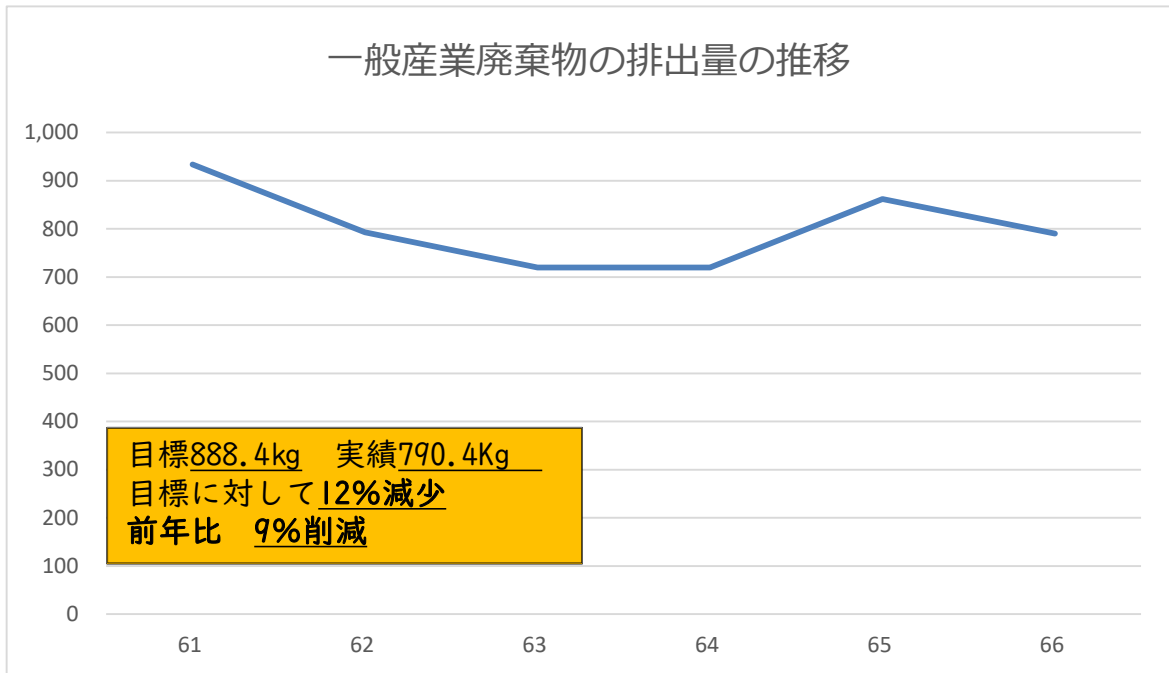
排水削減の取組の内訳とその評価

排水量の推移 (m³)

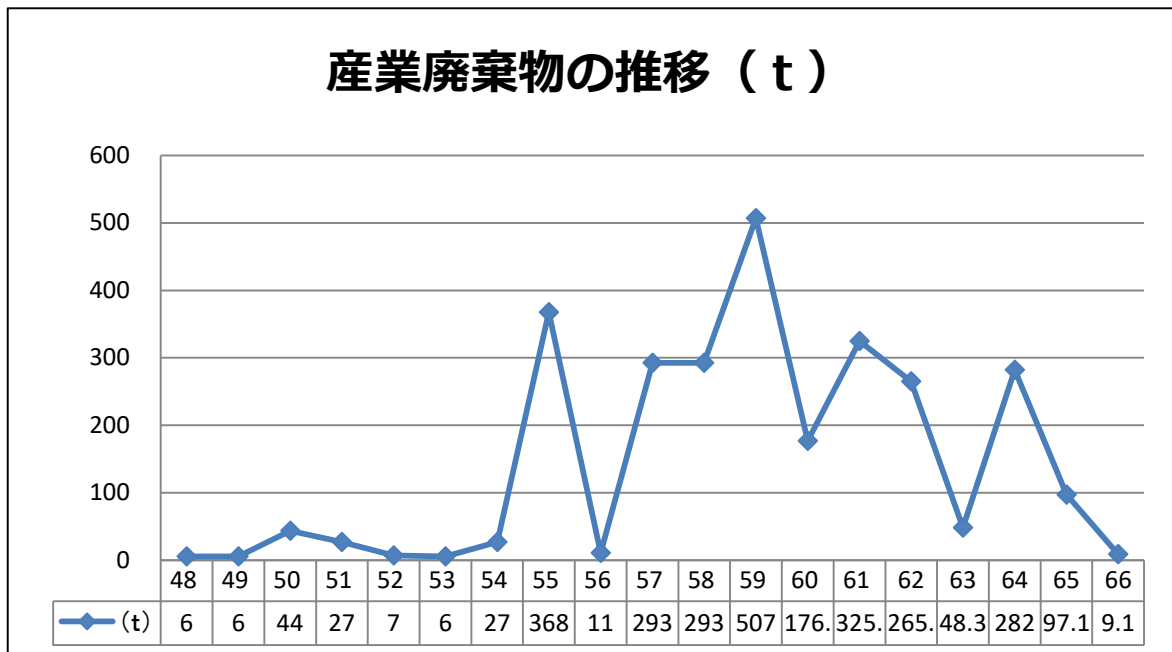


夏場に芝生に水を与えたため、水道の使用量が増えてしまった。

一般廃棄物削減のための取組の内訳とその評価



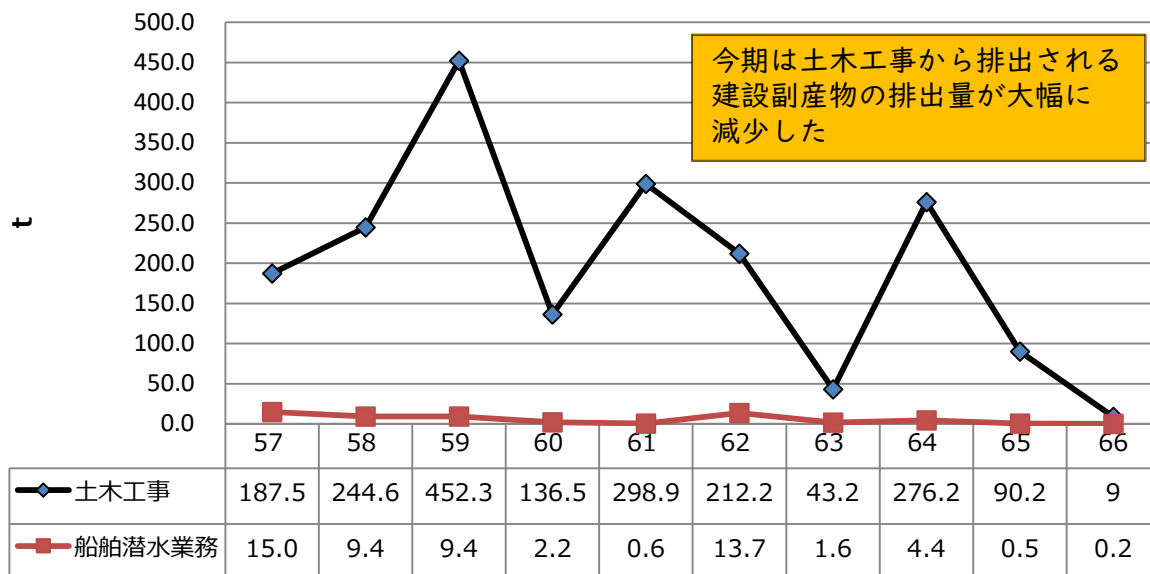
産業廃棄物削減のための取組の内訳とその評価



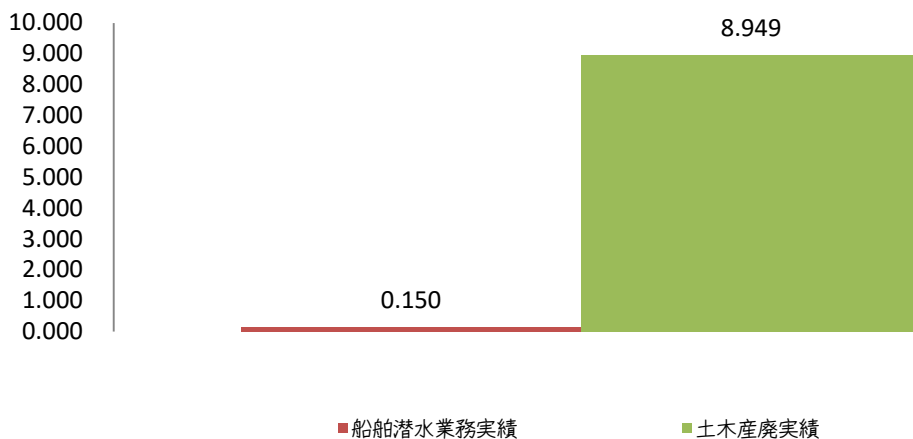
【産業廃棄物削減活動目標と実績】
 目標275t 実績 9.1t 目標に対して **93%削減** 前年比**91%削減**
 土木工事で産業廃棄物の取り扱いする現場がほとんどなかった

産業廃棄物削減のための取組の内訳とその評価（事業別）

産業廃棄物用途別推移



産業廃棄物部門毎排出量(t)



【産業廃棄物部門毎削減活動目標と実績】

土木工事 目標 275t 実績 8.94t **67.6%減少** 前年比**91%減少**
 船舶潜水業務 目標 4.6t 実績 0.15t **97%減少** 前年比**30%減少**

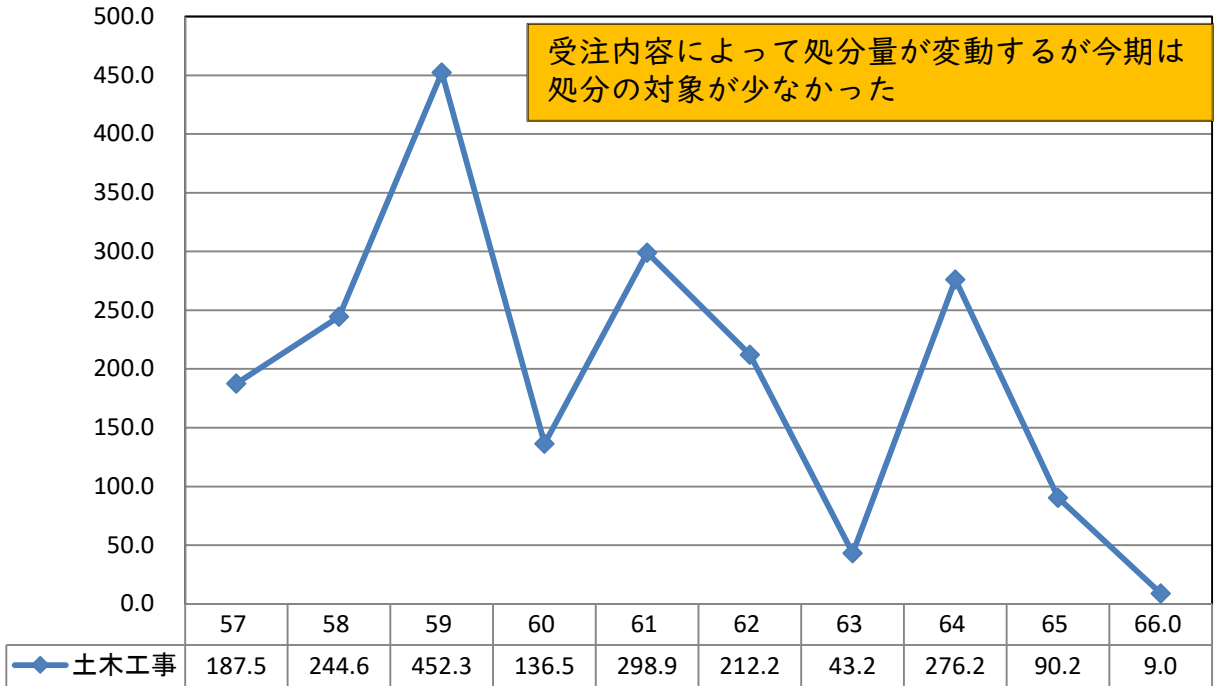
今年度実績で産業廃棄物の98%は土木工事から排出される建設副産物である

※水中清掃については独自の取組にて記載

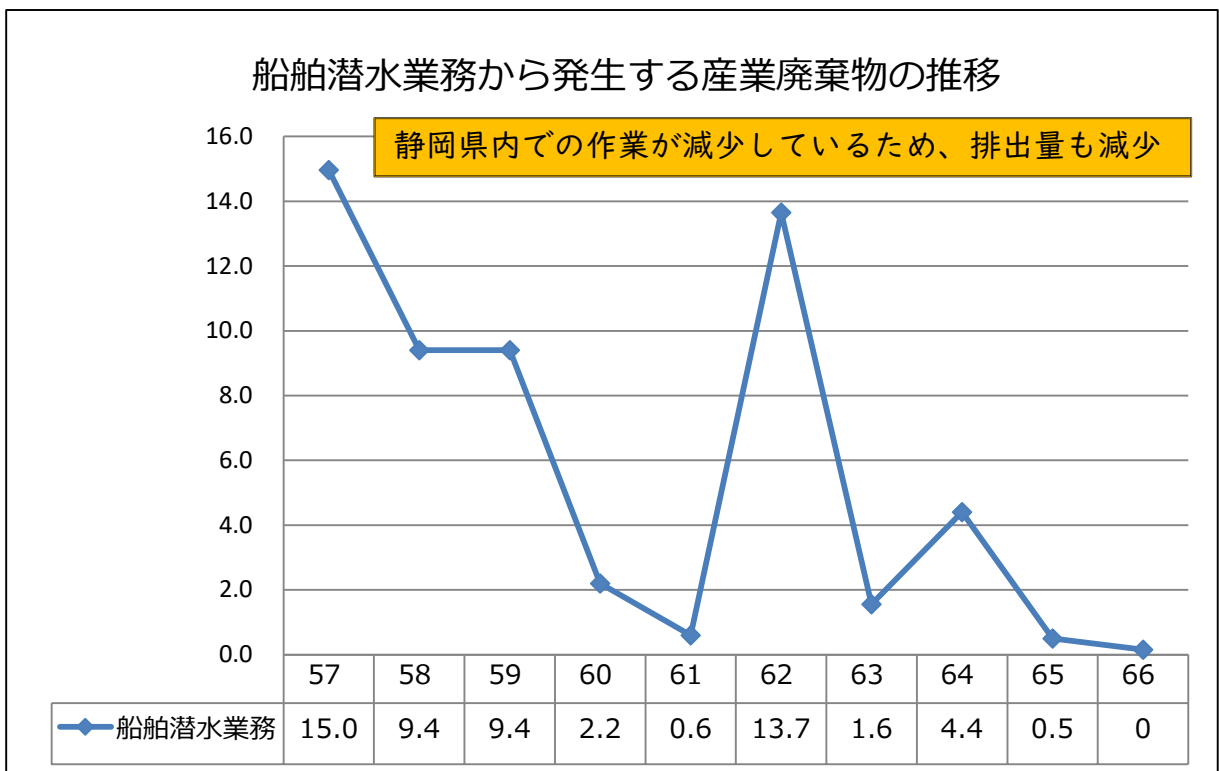
土木工事、船舶業務より排出された建設副産物の内訳



土木工事から発生する建設副産物の推移



船舶潜水業務から発生する産業廃棄物の推移

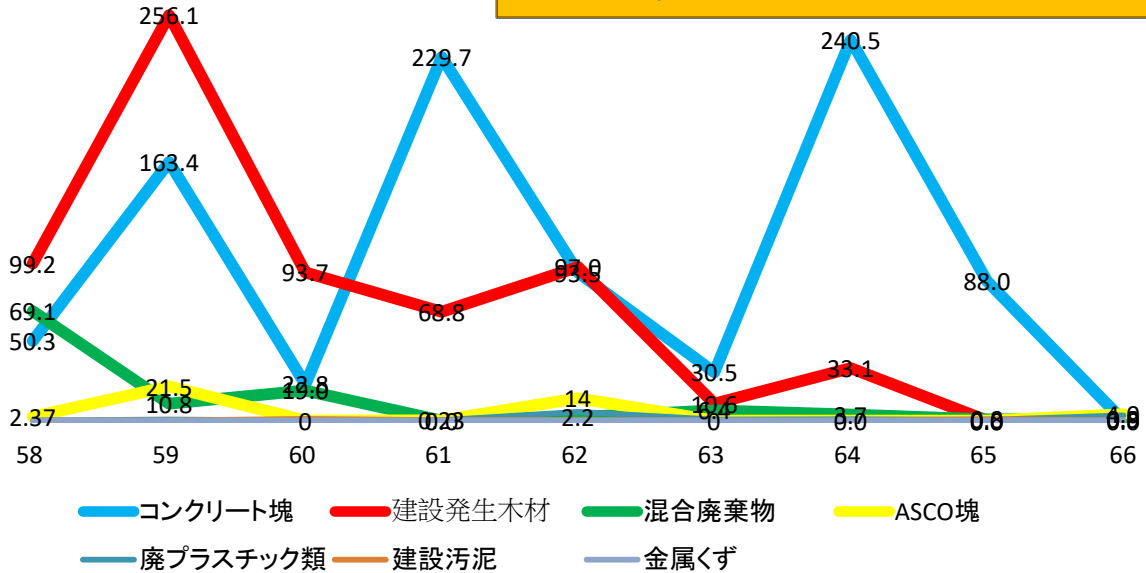


土木工事より排出された建設副産物の内訳



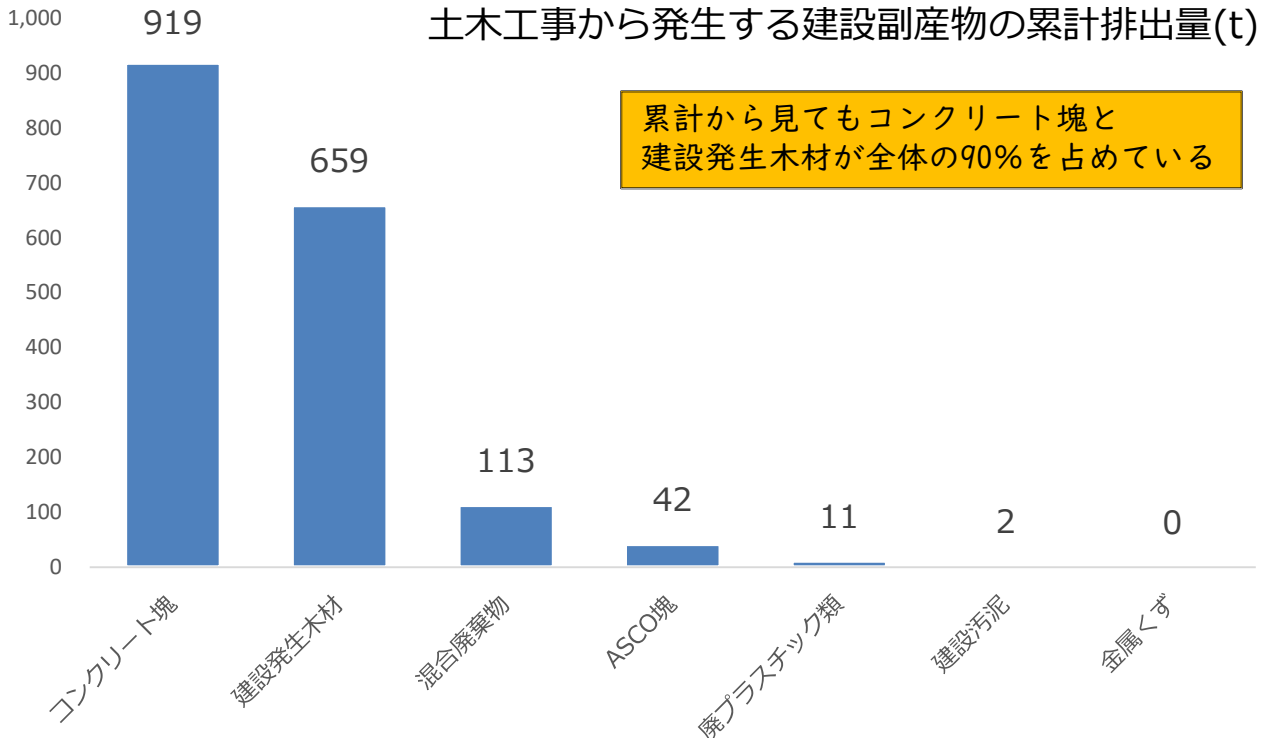
土木工事から発生する主な建設副産物の推移

受注内容によって処分量が変動するが今期は処分の対象が少なかった



土木工事から発生する建設副産物の累計排出量(t)

累計から見てもコンクリート塊と建設発生木材が全体の90%を占めている





8.KAITO独自の環境経営目標 取組結果とその評価、次年度の取組

船舶業務で発生するビルジ（水混じりの油分）と水中清掃事業で排出されるCo2の排出量、水中から回収した産業廃棄物の回収量の管理を目標としました

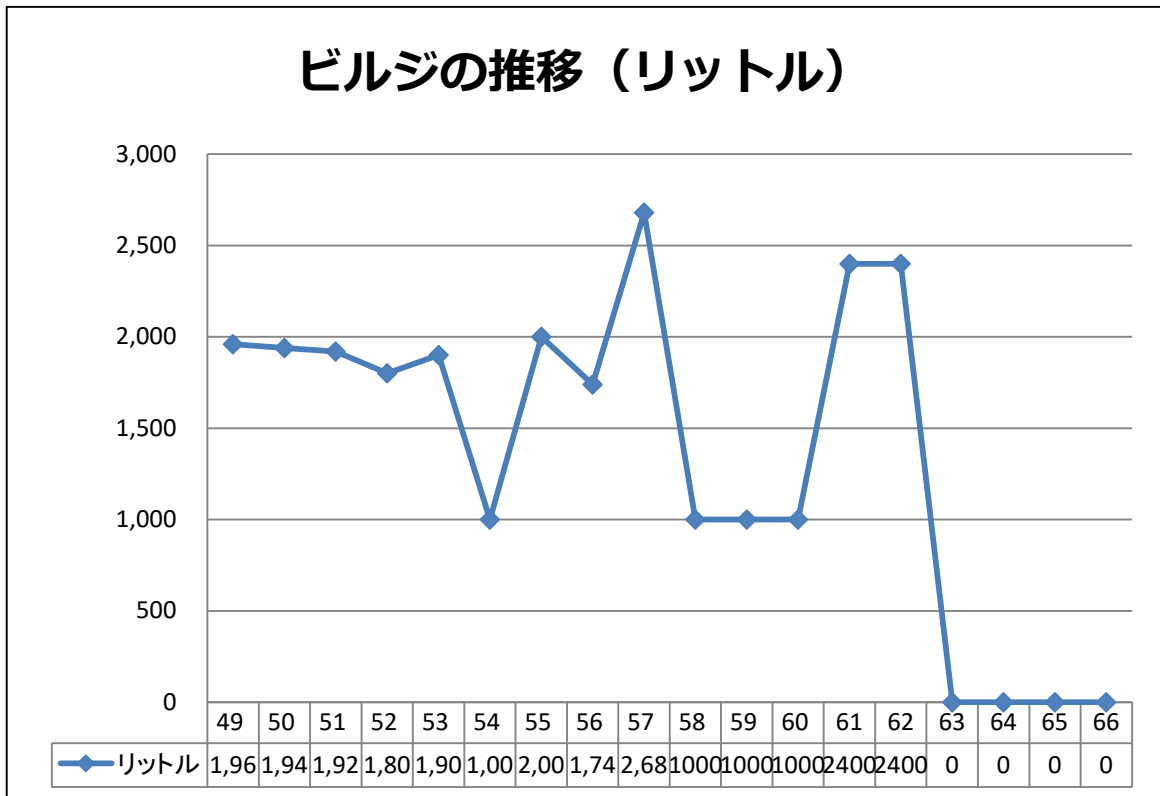
【①船舶のビルジ削減】

※ビルジについては船舶のみ

（令和4年9月～令和9年8月）

弊社では船舶を使用している。ビルジ（船底に溜まった油混じりの水分）の管理は一つ間違えば海洋汚染につながる可能性があり、また、船を沈没させたりする事になる場合もあるので日常の点検でよく確認します。削減目標としては毎年1%の削減を目標とします。

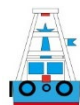
年度		第58期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
総排水量	リットル	2000.0	1817.5	1799.3	1817.7	1799.5	1781.5



【産業廃棄物削減活動目標と実績】

目標1817.5リットル 実績0リットル

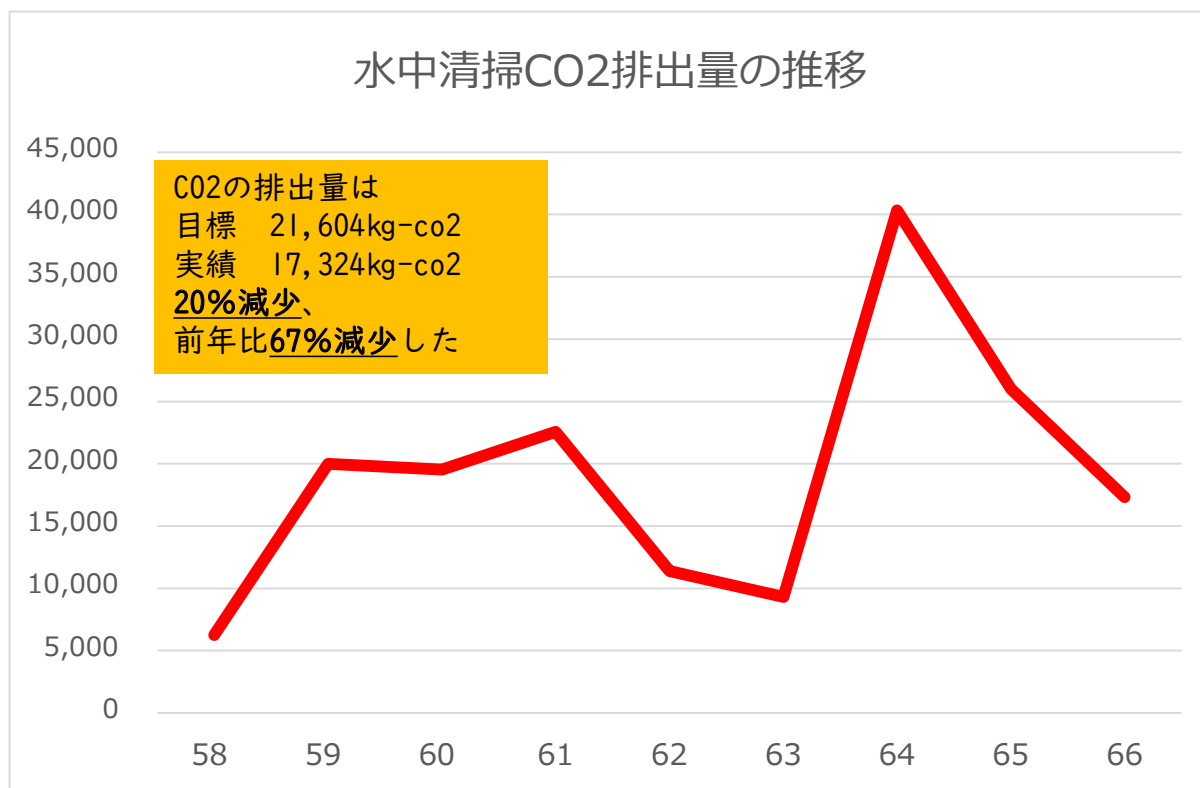
清水港内での船舶の稼働がほとんどない為、ゼロとなった引き続き、メンテナンスを行っていく



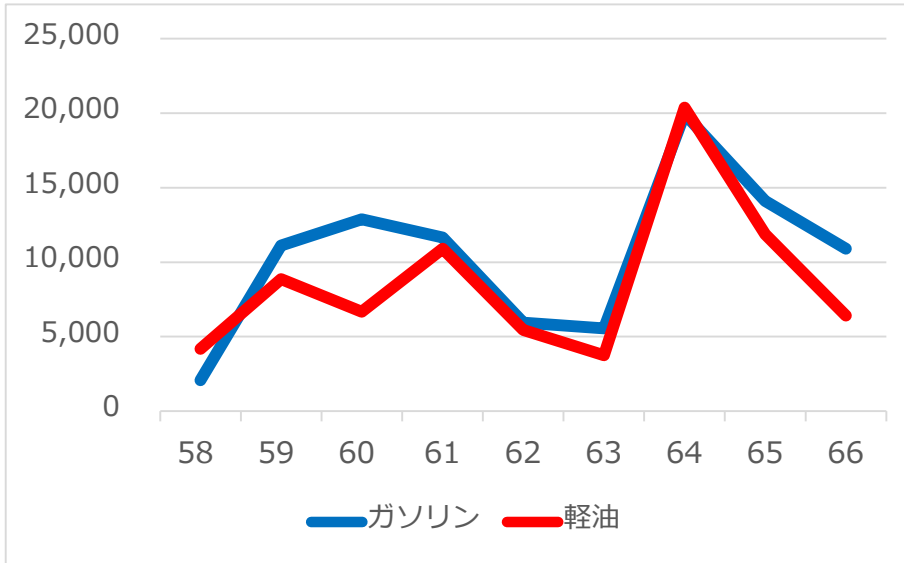
【②水中清掃Co2排出量の削減】

環境保全、社会貢献の事業である水中清掃で排出されるCO2の排出削減を目的としました。移動時に使用する車両の際に消費する燃料が対象です。平成29年度を基準値として、活動単位の採用を基に10年間で10%削減させる目標とします。このため、第65期（令和4年9月1日～令和5年8月31日）から70期まで以下のとおり、前年比1%削減を当面の目標とします。

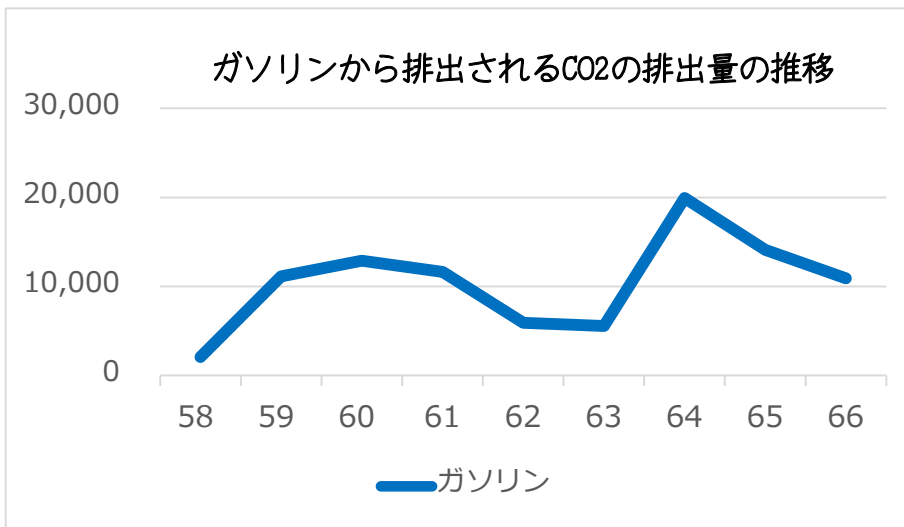
項目	年度	第59期 (基準値)	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
Co2排出量 (①+②)	kg-CO2	23,682	21,604	21,388	21,174	20,962	20,752
① ガソリン	kg-CO2	12,373	11,515	11,400	11,286	11,173	11,061
②軽油	kg-CO2	11,309	10,089	9,988	9,888	9,789	9,691



化石燃料別CO2の排出量の推移 (kg-co2)



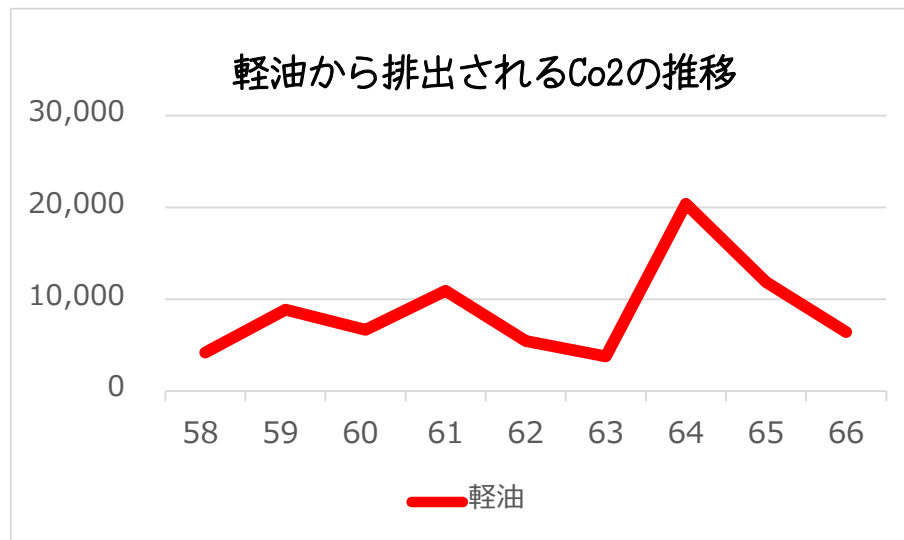
CO2の排出量のグラフとしてはガソリン車、軽油車共に同じ場所へ移動するため近似した線となる
自動車の性能、荷物の積載状況、運行経路を発注者と相談しながら更に削減していく



【ガソリン車】
目標10,089kg-co2
実績 6,410.2kg-co2

37%減少
前年比 **55%減少**

積み荷を減らす、
効率の良い運転を行った



【軽油車】
目標9,545kg-co2
実績6,192kg-co2

37%減少
前年比 **47%減少**

積み荷を減らす、
クレーン使用時には空ぶかしを行わず、
旋回速度や巻き上げスピードも効率的に動作させた

潜水作業におけるエコアクション21実施作業標準

項目	対策
始業前	1)社用車は出来るだけ乗り合わせなどを行い、運行時には法定速度を遵守する 2)潜水前に作業場所の気象・海象条件、障害物の有無及び船舶航行の船舶航行の頻度についての周知 3)作業場所、作業の内容、手順、潜水土の配置、業務分担についての打合せを行う 4)非常時、緊急時の対応の確認
エンジン始動時	1)潜水機材、設備の点検 2)潜水土船のエンジンの異常の有無 3)燃料、作動油等の量、油圧ホースの状態、潜水土船内のビルジの有無の点検
航行時	1)エンジンの出力は90%以下とする 2)海象に応じた航行をし、周辺環境に配慮する 3)見張りをたて他船舶及び障害物との接触を避ける
潜水土船の係留	1)風や潮流、波浪の向きに考慮して潜水土船の向きを決め、衝突や座礁をしないように係留する 2)係留設備の点検をする
標識の掲揚	1)潜水作業中であることの周辺の船舶に周知する（国際信号「A」旗の掲揚） 2)潜水作業付近に接近する船舶を発見したときは、赤旗やハンドマイク、汽笛等により注意し、衝突を回避する
油の流出の監視	1)作業中、潜水土船より油の流出等に対し、常時監視する 2)デッキ等より極力排水は行わない
潜水作業時	1)不必要な機械運転は行わない 2)機械の注油過多に注意する 3)資材、ロープ等の無駄使いをしない 4)工具を水中に持ち込む際は余分な油分等をふき取る 5)エアータンクのドレンは排出しない
給油時	1)給油漏れに注意する 2)給油の吹きこぼれの対策として吸着マットを用意する 3)給油時は持ち場を離れない
エンジン停止時	1)機関室内の燃料漏れ、異音、ビルジの有無を確認する
終業時	1)船内、船外の見回りを行い、異常がないか点検する 2)整理整頓をする

水中清掃作業におけるエコアクション21実施作業標準

作業名	水中清掃	使用機材	エアータンク、マスク、スーツ、ウエイト、フィン、水中無線電話、国際信号A旗、ジェットリフト、トレーラー、距離計、ダイビングコンピュータ、梯子、ハンドマイク、GPS端末	重大性	評価	可能性	評価	リスクの評価	
				死亡災害	10	災害件数5件以上	4	優先度	評価点
作業人員	潜水士4名、陸上作業員4名、監督員1名							◎ (最優先)	20~40
使用機械	充填用コンプレッサー、不整地車両、クレーン付きトラック、ボート、ジェットリフト、洗浄ポンプ	使用材料	回収用ゴミ袋、ラダー、マーカースイッチ、玉掛ワイヤー、スリングベルト、ビニールシート、ブラシ、はかり、かご、安全コーン、安全ロープ	休業30日以上	6	災害件数2~4件	2	○ (優先)	10~12
		保護具	保護手袋、水中ライト、ダイバーナイフ、ヘルメット	休業4日以上~30日未満	3	災害件数1件	1	△ (普通)	3~6
		資格等	潜水士、送気調節係、普通免許、小型船舶操縦士、移動式クレーン、玉掛、不整地運搬車	休業4日未満	1	殆どない	0	□ (残存リスク)	0~2
		リスク評価の評価点=「重大性」×「可能性」							

	作業標準 (ステップ)	使用機材・材料	急所	災害要因の洗い出し (危険性又は有害性の洗い出し)	リスクの見積				実施すべき事項 (危険性又は有害性の除去・低減対策)	リスクの再見積			
					重大性	可能性	評価点	優先度		重大性	可能性	現場特性	評価点
準備作業	作業前 打ち合わせ	資機材積載車両、安全コーン、ロープ、テント	体調管理	体調不良での潜水	10	0	0	□	潜水士に対し、体調確認	1	0	2	2
			思い込み 解釈間違え	誤動作、誤作業	10	0	0	□	確認事項の復唱、再確認	1	0	2	2
	作業資機材の 搬入・設営		交通安全	駐車してる車に接触	1	0	0	□	徐行で運転	1	0	0	0
			第三者への災害	通行人との接触	1	0	0	□	通行人がいる場合は作業一時中止	1	0	0	0
	清掃エリアを 決める	スーツ、フィン、マスク、距離計 マーカースイッチ、ロープ、国際信号A旗	風向き、潮流、波高	流される	1	0	0	□	風向き、潮流、波高を考慮し、エントリーする	1	0	2	2
				体がロープに巻きつく	1	0	0	□	ロープは必要以上に繰り出さない	1	0	2	0
	潜水器具の 装着	スーツ、フィン、マスク、タンク、ウエイト、ダイビングコンピュータ、保護手袋、水中ライト、水中無線電話	潜水服の破損・機材の故障	エアータンクが供給されない	10	0	0	□	潜水前に点検	2	0	2	2
				マスクや潜水服への浸水	6	0	0	□	潜水前に点検	3	0	2	2
				エアータンクがブローする	1	1	1	□	水温に応じて寒冷地仕様のレギュレーターを使用	1	0	2	2
	試験通話	水中無線電話	通話不良	潜水士と連絡がとれない	10	0	0	□	潜水前に点検	3	0	2	2
			"	潜水士の吸気が確認できない	10	0	0	□	潜水前に点検	3	0	2	2
	エントリー	梯子、ロープ	梯子の破損・脱落	潜水士が水中への落下	10	0	0	□	潜水前に点検	3	0	2	2
"			海中転落	3	0	0	□	保護具の着用	3	0	2	2	

	作業標準 (ステップ)	使用機材・材料	急所	災害要因の洗い出し (危険性又は有害性の洗い出し)	リスクの見積			優先度	実施すべき事項 (危険性又は有害性の除去・低減対策)	リスクの再見積				
					重大性	可能性	評価点			重大性	可能性	現場特性	評価性	
本作業	潜水	スーツ、フィン、マスク、ウエイト、ダイビングコンピュータ、保護手袋、水中ライト、水中無線電話	潜水障害	耳抜きができない	3	0	0	□	潜降速度を守る	3	0	2	2	
			"	低体温症	3	0	0	□	水温に合わせ、ドライスーツやインナー着用	3	0	4	4	
			"	スクイーズ	3	0	0	□	スーツやマスク内の圧力を水圧と同等にする	1	0	2	2	
			エア確保	エア切れになる	10	0	0	□	残圧計の確認、陸上との相互連絡	1	0	2	2	
			視界不良	方向が分からなくなる	10	0	0	□	無線システムを利用し、位置の確認	6	0	4	4	
			船舶が侵入	船舶と衝突	3	0	0	□	国際信号A旗の掲揚、マーカブイの設置、ハンドマイクによる周知	3	0	2	2	
	ゴミの回収	ジェットリフト ジェットポンプ	ごみの回収・洗浄	手足の吸い込まれ	3	0	0	□	むやみに吸い込みや噴き出しをしない	1	0	4	4	
			玉掛ワイヤー・ロープスリングベルト	吊上げ時の上下作業、死角に入る	吊荷の下敷き、間に挟まれる、玉掛けワイヤー等の破断	3	0	0	□	吊り上げる場合は安全な位置に避難	1	0	0	0
			回収用ごみ袋	障害物の形状	鋭利な個所で体を傷つける	1	0	0	□	力任せに引き上げたり、触らない	1	0	2	2
			保護手袋、ビニールシート	足元の安全確保	転倒、水中転落	1	0	0	□	足元の整理整頓、汚さない	1	0	2	2
			安全コーン、安全ロープ	第三者への災害	通行人との接触	1	0	0	□	通行人がいる場合は作業一時中止	1	0	0	0
	浮上	スーツ、フィン、マスク、タンク、ウエイト、ダイビングコンピュータ、保護手袋、水中ライト、水中無線電話	水中の障害物	障害物に絡まる	10	0	0	□	障害物を避けながら冷静に浮上	3	0	4	4	
			潜水障害	吹上げ	3	0	0	□	規定の浮上速度を守り、浮上する	1	0	4	4	
			"	浮き耳(リバースブロック)	3	0	0	□	耳が抜けない時は浮上スピードを調整、停止する	1	0	2	2	
			"	スクイーズ	3	0	0	□	スーツやマスク内の圧力を水圧と同等にする	1	0	2	2	
	ゴミの洗浄	洗浄ポンプ、ほうき、はかり、かご、ブルーシート	足元の安全確保	転倒、水中転落	1	0	0	□	足元の整理整頓、汚さない	1	0	2	2	
			周辺への対応	周辺を汚す	1	0	0	□	ブルーシートを使用	1	0	0	0	
	ゴミのカウント		障害物の形状	鋭利な個所で体を傷つける	1	0	0	□	力任せに持ち上げたり、触らない	1	0	2	2	
	ゴミの運搬	軽トラック、不整地車両、安全コーン、安全ロープ	交通安全	駐車している車に接触	1	0	0	□	徐行で運転	1	0	0	0	
			運搬物の落下	回収物をトレーラーに満載しない	1	0	0	□	過積載禁止	1	0	0	0	
			第三者への災害	通行人との接触	1	0	0	□	通行人がいる場合は走行停止	1	0	0	0	
	ゴミの積込	ゴミ回収車、安全コーン、安全ロープ、玉掛ワイヤー、スリングベルト	挟まれ、巻き込まれ	ゴミの積込時に手足を挟む	1	0	0	□	むやみに投げない。重量物は多人数もしくはクレーンで積込	1	0	0	0	
			交通安全	駐車している車に接触	1	0	0	□	徐行で運転	1	0	0	0	
			第三者への災害	通行人との接触	1	0	0	□	通行人がいる場合は作業一時中止	1	0	0	0	
後片付け	作業資機材の搬入・設営	交通安全	駐車している車に接触	1	0	0	□	徐行で運転	1	0	0	0		
		第三者への災害	通行人との接触	1	0	0	□	通行人がいる場合は作業一時中止	1	0	0	0		
		作業前の状態にする	通行人との接触	1	0	0	□	通行人がいる場合は作業一時中止	1	0	0	0		

第66期環境経営計画（令和5年9月～令和6年8月）

活動場所	用途	取組種別	担当者	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
本社	電力 化石燃料	CO2削減	室温	目標 室内温度目安28℃、夏は30℃に設定。夏場は新ストーブを御用する													
				実施													
	一般 廃棄物	減水		目標 資源ごみの分別、紙の回収、ゴミの分別抽出													
				実施													
	排水量	排水量削減	水	目標 水漏れ等は速速修理し、こまめに拭く。													
				実施													
現場	化石燃料	CO2削減	燃料 大工	目標 エンジンのアイドリングを短くし、急発進、不必要な回車の運転は禁止													
				実施													
	廃棄物	ビルの削減	田川	目標 軽微なゴミの分別の徹底と現場のゴミの削減の徹底													
				実施													
		廃棄物削減	経川	目標 不要なものは購入しない。受注工事も廃材発生物の削減がない場合に													
				実施													
月別 重点項目	事務所	電力 化石燃料	省エネルギーの 管理	新ストーブの徹底活用					省エネ 対策の 実施	省エネ 対策の 実施	空調は25℃に保つ シーリングファン活用						
		電力 化石燃料	作業現場で発生、 削減する	燃料の燃、減らして燃費・車の故障を 減らす				燃料のドック・燃料の整備			燃料管理は25℃に 保つ			点検・ 整備の 実施			
		廃棄物	工事現場の整理	現場ゴミの分別 実施	廃棄物の分別 チェック	不要な 物の配 置	現場の リ セット	現場の 清掃	不要な 物の配 置	クリー ンアッ プ管理	現場の ゴミの 削減						
		ビル等	養生帯のチェッ ク	スクリーニング シート等の確認		現場のビルダ ー目にする		養生材の設置・撤去の点 検・整備			大規模のビルダ ー等への 削減						
		車両	アイドリング時間 の短縮	室内の温度設定は25℃にする					タイヤの空気圧、タイヤの 履き替え			現場の整理と不要なものは 減らす。					
		船	燃費を減らす	アイドリング時間の短縮					最大燃費90%での航行			船体のメンテナンス					
		産業 廃棄物	ゴミの削減の一 環として現場の 整理	ゴミの削減、燃費、保管場にはゴミを 入れずに燃費シートを使う				燃費、点検の徹底			現場整理と燃費削減の 徹底						
	リサイク ル等	事業場の環境に 貢献	優先的にエコアクション21の推進、燃費削減・削減を促す、燃費のリサイクル等への取 組、燃費削減														

第67期環境経営計画（令和6年9月～令和7年8月）

活動場所	項目	取組種別	担当者	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
本社	電力 化石燃料	CO2削減	環境	目標：夏は涼しく、冬は暖かいものを選び着る。脱履は靴スロープを使用する													
	一般 廃棄物		減水	目標：南無コピーの削減、紙の縮減、ゴミの分別徹底													
	排水量		排水量削減	水	目標：水栓は止水栓を出しっぱなしにしない。トイレの水は節水水栓												
現場	化石燃料	CO2削減	燃料 大江	目標：エンジンのアイドリングをしない。急ぶがし、急ぎ道、不必要な乗組の乗降は禁止													
	産業廃棄物	ビルド削減	田川	目標：船場へのゴミの持ち帰りと燃焼の日曜日の厳格な執行													
		廃棄物削減	藤川	目標：不要なものは購入しなく、廃棄工事も廃棄物処理物の異動がない。廃物に													
月別 重点項目	事務所	電力 化石燃料	省の削減と省電の 啓発	靴スロープの徹底使用					省エネ LED照明 LED	省エネ LEDと 目上け 啓発	空調は22度でに保つ シーリングファン使用						
	現場	電力 化石燃料	経済効果で実行 実行する	燃費の節、古いのり変更・車の仕立を 減らす				船のドック・船体の整備			室内温度は22度でに 保つ						
		廃棄物	工事廃物の整理	現場廃物の再利用	廃棄物の分別 チェック			不要物 等の配 集	廃棄物 のり セット	船内の 清掃	不要物 等の配 集	クリー ンアッ プ検知 対策	現場廃 物の再 利用				
		ビルド	乗込乗降のチェッ ク	スクリーンシヤフ ト周りの徹底	船内のドレンをセ ットにする			乗降時乗降・乗降時の点 検・整備			大規模のドレンや乗降時配 管の点検						
		乗客	アイドリング時間 の短縮	乗客の乗客の定数は22度にする					タイヤの空気圧、タイヤの 履き替え			乗客の整理と不要なものは おろす。					
		船	夏は涼しく、冬 は暖かい	アイドリング時間短縮					船大抵から80%での航行			船中のメンテナンス					
		産業 廃棄物	ゴミの削減と船の一 時保管方法の確立	ゴミ削減、燃費、保管場にもよらないよ うに燃費シートを使う				燃費、分別の徹底向上			現場燃費と燃費削減の徹底 の徹底						
リサイク ル室	事業場内の燃費に 関係	船内内にエコアクション21認定事業者の活用、燃費削減・削減を促す、燃費のリサイクル車への利 用、燃費向上															

環境経営計画の取組結果とその評価

削減目標の種類	種別	66期取組内容	評価	遵守状況	67期取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力	新エネルギーの導入	新社屋の移転に伴い、薪ストーブストップ、シーリングファンを設置	○	継続
		使用していないPCや部屋の電気を消す	実践できている。	○	継続
		日よけと窓の開閉	実践できている。	○	継続
		温度計で温度、湿度を管理	見やすいため、適正温度が保たれている。	○	継続
		保温性の高いものや涼しい衣服を着用	実践できている。	○	継続
	化石燃料	空ぶかし、アイドリングの低減	実施できている。	○	継続
		相乗りの実施	外注、協力業者に周知する。	○	継続
		船のクリーニング	実施できている。	○	継続
廃棄物の削減	一般産業廃棄物	コピー用紙の両面実施	実施出来ている。	○	継続
		データの電子化保存によりペーパーレス化	実施出来ている。	○	継続
	産業廃棄物	廃棄物の選別、木材、鉄材の再資源化	100%実施出来ている。	○	継続
		ITを利用した水中での資材の投入量の削減	100%実施出来ている。	○	継続
排水量の削減	排水量	ボウルやバケツを利用し、洗い物をする	実施出来ている。	○	継続
		水道の出しっぱなし、節水への呼びかけ	実施出来ている。	○	継続
ビルジの削減	ビルジ	関係法規を理解した上でのビルジの適正処理	100%実施出来ている。	○	継続
地域活動	地域の環境活動	年に2回の環境保全活動。	5月、10月に実施。	○	継続

9.環境関連法規への違反、訴訟の有無

過去3年間に於いて、廃棄物処理法、公害防止関係、環境関連法規に関して違反はありませんでした。また、関係機関からの指摘・訴訟もありませんでした。

適用対象	法律・条令・規則	要求事項・責務	具体的確認事項	遵守状況
事業者全般として遵守する法律	環境基本法	公害防止・自然環境保全 廃棄物の適正処理 再資源等の利用 国・地方公共団体の施策に協力	エコアクション21への積極的取組	○
	循環型社会形成推進基本法	廃棄物の発生抑制 循環的利用 適正処分 国・地方公共団体の施策に協力	3Rへの努力	○
	地球温暖化対策推進法	CO2発生抑制 国・地方公共団体の施策に協力	エコアクション21への積極的取組	○
	グリーン購入法	できる限り環境物品等を選択するよう努める	再生品・エコマーク又は同等の製品を優先的に購入 新規購入、買替えの際は、省エネ性能の優れた物	○

土木工事等建設業者として遵守する法律	廃棄物処理法	事業活動に伴って生じた廃棄物は自らの責任において処分する	廃棄物の分別、保管、再生	○
		収集運搬・処分は許可業者	マニフェストの管理（5年間保管）	
	再生資源利用省令	指定副産物：建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊の利用	指定建設資材と再生資源の利用量の把握等による計画の作成と実施記録の保存（1年間）	○
	建設副産物適正処理推進要綱	建設副産物が発生する建設工事	「再生資源利用計画」「再生資源利用促進計画」の作成・実施状況の記録	○
	騒音規制法	杭打ち機、びょう打機、削岩機、空気圧縮機等を使用する作業	知事へ7日前までに届け出 作業敷地境界にて85デシベル以下	○
	振動規制法	杭打ち機、くい抜き機、プレーカー、舗装版破砕機を使用する作業	知事へ7日前までに届け出 作業敷地境界にて75デシベル以下	○
	騒音規制法	車輛・建設機械の騒音防止	低騒音形の機械使用 作業時における騒音に対する配慮	○

水中土木工事等建設業者として遵守する法律	海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	船舶からのビルジ・廃油の排出禁止	ビルジ・廃油の管理	○
	水質汚濁防止法	作業時における汚染物質の流出防止	作業現場、船舶の管理	○
	港則法	廃油・ゴミなどの海中投棄禁止	作業現場、船舶の管理	○
	廃棄物処理法	事業活動に伴って生じた廃棄物は自らの責任において処分する	廃棄物の分別、保管、再生	○
		収集運搬・処分は許可業者	マニフェストの管理（5年間保管）	
騒音規制法	車輛・建設機械の騒音防止	低騒音形の機械使用 作業時における騒音に対する配慮	○	

産業廃棄物の処理に関する条例	静岡市の産業廃棄物の適正な処理に関する条例	適正な処分、契約	処分地の実地確認	○
	静岡県の産業廃棄物の適正な処理に関する条例	適正な処分、契約	処分地の実地確認	○

令和5年9月15日 確認者星野知己

10.社会貢献活動

活動としては、水中清掃や静岡市森林アドプト事業に協力しております。
今期はうなぎの会の生態調査に参加しました。

令和5年 11月 12日

庵原川にてうなぎの会が主催する生態調査に参加しました



令和5年度静岡市森林アドプト事業参加 (静岡市内の森林整備事業の協力)

H23	5.0t-Co2/年	H24	4.5t-Co2/年
H25	3.7t-Co2/年	H26	4.3t-Co2/年
H27	3.4t-Co2/年	H28	1.0t-Co2/年
H29	1.5 t -Co2/年	H30	1.3 t -Co2/年
R1	1.1t-Co2/年	R2	1.3t-co2/年
R3	1.6t-co2/年	R4	1.7tco-2/年

R5 1.8t-co2/年
合計 32.4t-Co2/年



様式第2号（第6条関係）

SDGs宣言達成状況報告書

私たちは、宣言書に記載した取組目標の達成状況を次のとおり報告し、持続可能なまちづくりに向け、次のとおり取り組むことを宣言します。

報告日 2024年1月8日

事業所・団体等又は関連事業者等としての2030年の（又は中長期的な）あるべき姿			
事業活動を通じて「自然」「地域」に想いを寄せ、行動ができる会社になる			
事業所・団体等又は関連事業者等としてのねらい、特徴的な活動			
現在参画している社会貢献活動の充実、会社内での自然と向き合う場所、時間の創出、社内間コミュニケーションの構築			
目標に関連する取組内容			
ゴール	2023年12月31日までの取組目標	左記取組目標の達成状況	2024年12月31日までの取組目標
			
1	静岡市内の事業所や団体等によるSDGs活動を促進し、優良事例の発掘と横展開を図るとともに、市内事業所・団体等におけるSDGs取組状況を測定し、国内外に向けて情報発信することを目的に、SDGs宣言しています。		
2	災害時での社員、ご家族の安全の確保をずるためのネットワーク構築	社内での構築、共有はできた。	更に家族間での情報共有とコミュニケーション体制の構築確認、地域への協力体制の構築
3	エコアクション21を通じた社内の環境負荷軽減の取組	CO2の排出削減は達成できた。	社内に潜在化しているムラ、無駄、無理を排除しさらなる環境負荷の取り組みを実施
4	全国の水辺の環境保全、社会貢献事業の実施	事業の再開により計画通り実施できた	引き続き無事故、無違反が無いように安全第一で進めていく
5	山や森にある自然由来のエネルギーを積極的に使用する	化石燃料に依存せず、薪をつくり、薪ストーブで暖を取っている	積極的に現場で排出された雑木や不要になった樹木を回収する
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
その他			

（記載上の注意）

- 1 取組目標は3つ以上のゴールについて目標を設定し、記載してください。
- 2 取組のない目標については、行ごと削除してください。
- 3 取組目標は、出さず限り定期的に更新してください。



【取組目標】
災害時での社員、ご家族の安全の確保をするためのネットワーク構築

【達成状況】
トランシーバー、LINEを使った社内での共有はできた

【今期の目標】
会社→社員→家族間での情報共有とコミュニケーション体制の構築確認



【取組目標】
全国の水辺の保全事業の実施

【達成状況】
計画通り実施できた

【今期の目標】
安全、安心、効率よくできる環境を構築し実施する



【取組目標】
山や森にある自然由来のエネルギーを積極的に使用する

【達成状況】
化石燃料に依存せず、薪をつくり、薪ストーブで暖を取っている

【今期の目標】
積極的に現場で排出された雑木や不要になった樹木を回収する

11. 代表者による全体評価と見直し・指示

見直し 関連情報	項目	確認	必要に応じて評価・コメント記載
	エコアクション文書	○	記録・文書として作成しました
	環境経営目標及び目標達成状況	○	継続して取り組む事
	環境経営計画及び取り組み実施状況	○	継続して取り組む事
	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	○	継続して取り組む事
	外部コミュニケーション・対応記録	○	継続して取り組む事
	問題点の是正・予防措置の実施状況	○	継続して取り組む事
	取引先、業界、関係行政機関、その他外部動向	○	継続して取り組む事
	その他 ()	○	継続して取り組む事

代表者による 全体評価・見直し 指示	<p>今期は、事業全体のCO2排出量を目標より1%削減、ビルジの排出削減、建設副産物の排出量の大幅な抑制を達成できた。これもひとえに社員の意識向上の賜物ではあるが、まだまだ工事受注案件によっては排出量が増加することが予想される。社会貢献活動としては、従来の活動に加え、うなぎの生態調査の参加を行った。これからも、地域や社会に必要とされる活動、会社になるように努力していきたい。</p> <p style="text-align: right;">令和6年12月26日 株式会社KAITO 代表取締役 星野知己</p>		
	見直し事項	変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
	環境経営方針	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	環境経営目標	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	環境経営計画	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	環境に関する組織（実施体制含め）	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	その他のシステム要素	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	その他（外部の対応）	有 <input checked="" type="radio"/> 無	



株式会社 KAITO

kaito@gokaito.com

http://www.gokaito.com